



公益財団法人 松江体育協会
創立100周年記念誌

～ 普く 絶えず 正しく ～
新たな100年に向けて



100th
ANNIVERSARY

PhotoAlbum
1925年～2024年



タイムスリップ

—100年の歴史を当時の貴重な写真に基に綴ってみました—



第13回山陰オリンピック大会
(1925年／大正14年)

1925年～
大正14年



山陰オリンピック当時の事務所
(1925年／大正14年)



島根県中学校体育大会 (1931年／昭和6年)

1930年～
昭和5年



第28回全山陰陸上選手権大会
(1941年／昭和16年)

1940年～
昭和15年



第1回玉造毎日マラソン
(1958年／昭和33年)

1950年～
昭和25年



東京オリンピック聖火歓迎 (県庁前)
(1964年／昭和39年)

1960年～
昭和35年



津田晴一郎、吉岡隆徳、
森山時雄三より
オリンピック記念品寄贈
(1978年／昭和53年)

1970年～
昭和45年



岸清一郎銅像前に
ブランデー氏花輪を供える
(1964年／昭和39年)





全国の精鋭が集まった開会式
(くにびき国体主会場) (1982年/昭和57年)

1980年～
昭和55年



健康ひろば少年のランニング
(1982年/昭和57年)



第5回全国スポーツ・レクリエーション祭
(1992年/平成4年)

1990年～
平成2年



第31回全国中学校バスケットボール大会
松江市立湖東中学校優勝 (2001年/平成13年)

2000年～
平成12年



新松江市合併記念市民体育祭
第30回「地区対抗大運動会」(2006年/平成18年)



松江体育協会80周年記念事業 (2004年/平成16年)



世界陸上アイランド陸上チーム事前合宿
(2006年/平成18年)

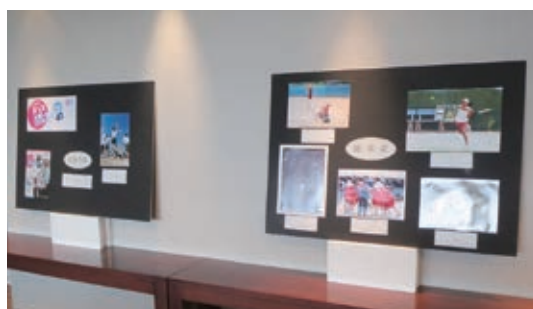


夏休み子どもスポーツ教室
(2008年/平成20年)





第33回地区対抗大運動会
(2012年／平成24年)



松江体育協会90周年記念事業
(2015年／平成27年)

2010年～
平成22年



全国高校総体 (PR・新体操)
(2016年／平成28年)



市民体育祭第35回地区対抗大運動会
(2016年／平成28年)





第28回世界少年野球大会 松江大会
(2018年／平成30年)



第40回記念まつえレディースハーフマラソン
(2019年／平成31年)



FIMBA ワールドリーグ松江2018
(世界シニアバスケットボール大会)
(2018年／平成30年)



第1回国宝松江城マラソン
(2018年／平成30年)





令和元年度松江市スポーツ指導者講習会
(2020年／令和2年)

2020年～
令和2年



水谷隼選手トーク&卓球交流会
(2021年／令和3年)



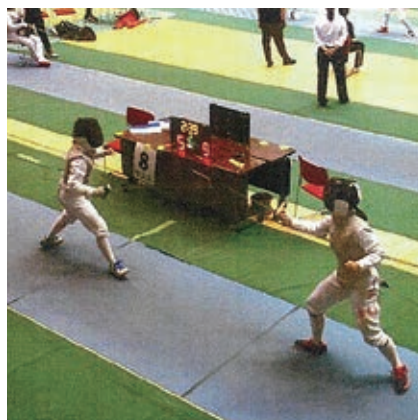
市民体育祭第53回松江市ソフトボール大会
(2023年／令和5年)



市民体育祭第39回地区対抗大運動会
(2024年／令和6年)



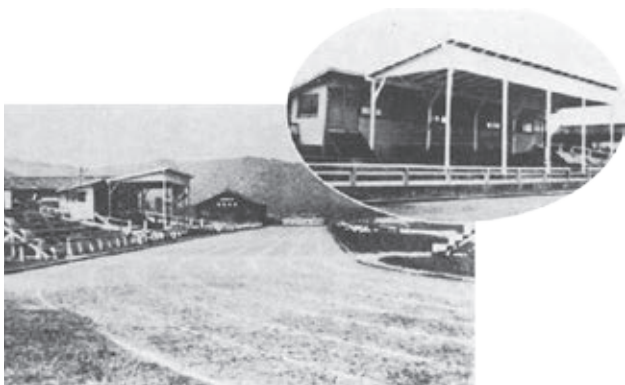
 地元で活躍するアスリート





松江市体育施設の今昔

—覚えていますか？ 見たことありますか？—



昭和運動場竣工（1929年／昭和4年）



岸運動場
（1939年／昭和14年）



碓谷バレーボールコート



さようなら陸上競技場市民体育祭（1977年／昭和52年）



松江市総合体育館竣工（1976年／昭和51年）



屋内温水プール竣工（1976年／昭和51年）

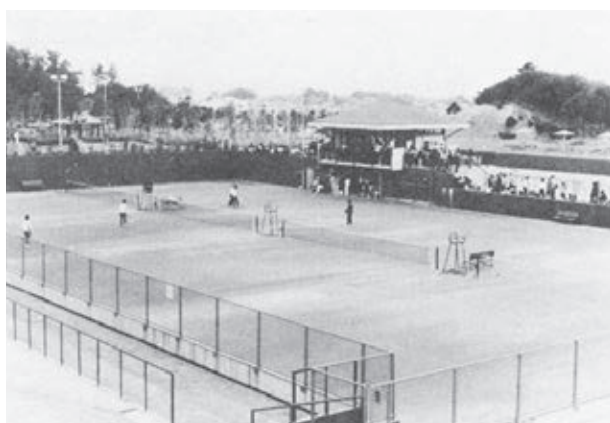




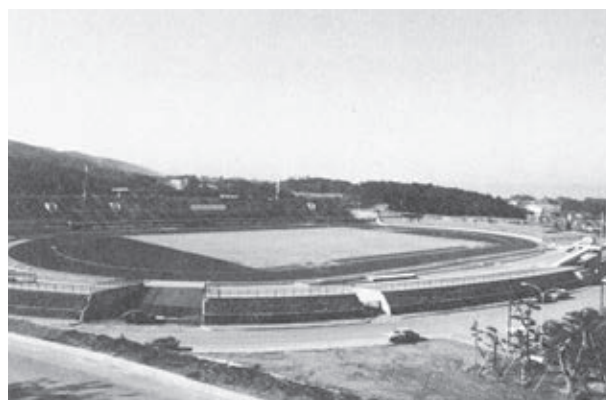
楽山庭球場竣工（1969年／昭和44年）



松江市営野球場竣工（1978年／昭和53年）



松江市営庭球場竣工（1980年／昭和55年）



松江市営陸上競技場竣工（1981年／昭和56年）



現総合体育館竣工（2016年／平成28年）



2026年8月改修工事完了予定

（事業者グループ提供）





はばたけ、松江のトップアスリート

—記念すべき100周年の年に大活躍したスーパーアスリート—



広瀬 健太

Hirose Kenta

2009年～2011年、2015年～2016年 日本代表

2013年～2022年 サンロッカーズ渋谷所属 天皇杯（3回）優勝



須山 晴貴

Suyama Haruki

2022年 栃木国体 3m板 1位

2023年 鹿児島国体 3m板 1位

2023年 ワールドカップ（カナダ） 3m シンクロ 3位





小島 也弥 *Kojima Yaya*

2016年 第7回WBSC女子野球ワールドカップ 優勝
2018年 第8回WBSC女子野球ワールドカップ 優勝
2023年 第3回BFA女子野球アジアカップ 優勝



細木 咲良 *Hosogi Sakura*

2023.1 W40 MONASTIR (チュニジア) シングルス 優勝
2023.5 全仏オープン (フランス) シングルス 予選出場
2024.9 W75 PERTH (オーストラリア) ダブルス 優勝





三代 大訓 *Mishiro Hironori*

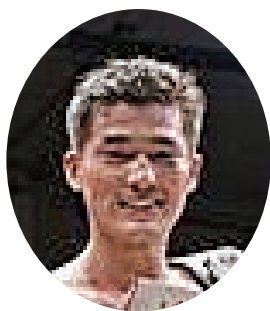
戦績：19戦17勝1敗1分

【現在】第65代日本ライト級チャンピオン（現在2度防衛中）

IBF世界ライト級6位

第44代東洋太平洋スーパーフェザー級チャンピオン（4度防衛のち返上）

A級トーナメント優勝



山本 遥香 *Yamamoto Haruka*

2023年 女子U19日本代表

FIBA U19 WOMEN'S BASKETBALL WORLD CUP (2023.7) 6位入賞





坂根 海琉子 *Sakane Miruko*

U20 世界レスリング選手権大会 女子50kg級 第3位
令和5年度天皇杯全日本レスリング選手権大会 女子50kg級 第3位
令和5年度全国高等学校総合体育大会レスリング競技大会 女子50kg級 優勝



津森 志道 *Tsumori Shido*

2023 世界ジュニアカデ選手権（ジュニア） 3位
2023 ワールドカップ（ジュニア）フランス / デュルダン大会団体 優勝
2024 YAMAGUCHI サーブルチャレンジマッチ（国内ランキングマッチ） 優勝





発刊にあたって

公益財団法人 松江体育協会

会 長 上 定 昭 仁

このたび、公益財団法人松江体育協会が創立100周年を迎えるにあたり、大正から令和へと受け継がれてきた本協会の歩みを振り返る記念誌を発刊できますことを喜んでおります。

本協会は、大正13年5月1日の設立以来、「普（あまね）く」「絶えず」「正しく」のスローガンの下、本市におけるスポーツの普及・発展に取り組み、全国・世界で活躍する選手を輩出するとともに、市民の皆様の健康増進と体力向上を牽引してまいりました。こうした活動を積極的に進めてこられましたのは、設立当時からこれまでに関わってくださった本協会役員の皆様、ならびに本協会加盟競技団体など関係する皆様のご支援の賜物であり、心より感謝申し上げます。

さて、本協会100年の歴史を紐解きますと、大正13年、山陰オリンピック（現・全山陰陸上競技大会）の開催規模拡大を機に、全国的にもかなり早い段階で産声を上げました。その後、スポーツの普及やスポーツ人口の増加に貢献を果たし、昭和54年には組織基盤強化のため財団法人となって、競技スポーツの振興・強化に注力しました。その3年後の昭和57年に開催された「くにびき国体」は、市民の皆様へのスポーツに対する関心や意欲の醸成・増進に大きく寄与したものと捉えております。さらに、平成25年には公益財団法人へ移行し、今日までスポーツへの参画促進や競技力向上に努めているところです。

こうした長年にわたる取組みの成果として、各競技種目において地元出身選手が活躍されています。なかでも昨年は、テニスの細木咲良選手が、「パース国際ITF W75#2」をはじめ3つの国際大会のダブルスで優勝を果たされたほか、バスケットボールの山本遥香選手、フェンシングの津森志道選手、レスリングの坂根海琉子選手らが世界の舞台で優秀な成績を収められました。

本協会として、今後も、市民スポーツの普及・発展・強化と、将来トップアスリートとなることが期待される人材の発掘・支援に取り組んでまいります。そして、来たる4月1日には「松江スポーツ協会」と改称し、新たな100年に向けて、市民の皆様がスポーツを通じて人生をより豊かなものとすることを目標に尽力いたしますので、引き続きご支援ご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、本誌の編纂に当たり、多大なご協力をいただきました皆様に厚くお礼申し上げ、発刊に当たってのご挨拶といたします。





創立100周年を祝して

公益財団法人 島根県スポーツ協会
会 長 丸 山 達 也

このたび、公益財団法人松江体育協会が創立100周年を迎えられましたことを、心からお喜び申し上げます。
また、創立から今日までの歴史をまとめた100周年記念誌が発刊されることは、これまでの歩みを未来に繋げる貴重な記録として、誠に有意義なことであり深く敬意を表する次第であります。

貴協会は、大正13年5月1日に創立されて以来、終戦直後の島根県体育協会の再建にもご尽力いただくなど、島根県における地域スポーツ界のリーダーシップを発揮され、今日まで幾多の困難を乗り越えながら発展してこられました。

特に、昭和54年7月からは財団法人として基盤強化された新体制のもと「くにびき国体」の成功に大きく貢献されました。また、平成25年には公益財団法人に移行され、社会的な信頼性をあげることにより、これまで以上に地域スポーツの発展に寄与されています。

さて、近年の松江市のスポーツ界を見ますと、毎年、松江市出身の選手やチームが、全国を舞台に優秀な成績を収められています。また、2024年に開催されたパリオリンピックには、松江市出身の錦織圭選手が5大会連続オリンピック出場を果たされるなど、多くの松江市出身の選手が、国際大会などの大舞台で活躍されています。こうした選手の活躍は、松江市民をはじめ多くの島根県民に感動と勇気を与えています。

今後に目を向けますと、2025年に全国高等学校総合体育大会の男子バレーボール競技、2030年に国民スポーツ大会の12の正式競技・特別競技が、松江市で開催される予定です。

当協会としましても、これらの大会の開催を契機として、貴協会をはじめとする関係団体のご協力をいただきながら、各競技団体における指導者の養成や優秀な選手の発掘・育成に努め、競技力の向上を図り、より一層のスポーツの普及・発展を推し進めてまいり所存であります。

そして、これらの大会で松江市出身の多くの選手が奮闘し好成績を収められ、若い世代におけるスポーツ・運動の普及とそのレベルアップが推進されることを期待しております。

公益財団法人松江体育協会におかれましては、島根県内では数少ない法人格を有する体育協会として、今後もスポーツ活動を通じた健康づくりや青少年の健全育成、世界で活躍するスポーツアスリートの養成に努められ、ますます発展し、飛躍されますことを祈念いたしまして、発刊によせる言葉といたします。





発刊を祝して

松江市議会

議長 吉 金 隆

このたび、公益財団法人松江体育協会が創立100周年を迎えられましたことに、心からお祝いを申し上げます。また、100周年にあたり、数々の業績を後世にとどめる記念誌を発刊されることは誠に意義深く、心よりお喜び申し上げます。

貴協会におかれましては、大正13年の設立以来100年の長きにわたり、スポーツの素晴らしさを次世代につないでいこうと、体育及びスポーツの振興に熱心に取り組んでこられ、輝かしい伝統と業績を今まで継承してこられました。あらためて皆様方のご努力に対し深く敬意を表します。

松江市では、平成18年に「スポーツ都市宣言」を行い、スポーツをとおして健康な心とからだをつくり、明るく豊かな社会をきずくことを目指した取り組みを進めてきました。近年、スポーツを通じて本市を訪れる皆さんにも、松江を満喫してもらい繰り返し訪れてもらえる機会につなげるなど、スポーツと観光振興を結び付けた取り組みも求められており、スポーツを通じたまちづくりを分野横断的に進めていくため、令和2年に「松江市スポーツ推進計画」を策定しています。

また、平成28年には、旧体育館の1.5倍の規模をほこる新たな松江市総合体育館がオープンして、大規模な大会が開催可能となり、アマチュアスポーツの拠点として本市のスポーツ振興に大きな役割を果たしています。また、島根ササノオマジックのホームアリーナとして、現在でも多くのブースターの方にご来場いただいておりますが、2026-27シーズンの開幕をめざして、改修が進められています。改修後は、スイートやラウンジが新設され、さらに多くの方にご来場いただけることを期待するものです。

令和2年からの約3年間は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、多くのスポーツ大会やイベントが延期や中止を余儀なくされましたが、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、多くのスポーツ大会が感染拡大前のように開催されるようになったことは大変喜ばしいことでありました。100周年を迎えた今年は、8年ぶりに市民体育祭「地区対抗大運動会」が開催され、市内各地区の代表選手による白熱した戦いが繰り広げられ、大いに盛り上がった一日となったことは、記憶に新しいところであります。

貴協会におかれましては、次の100年を見据え、スポーツの競技力向上はもとより、市民がスポーツに親しむ活動にご尽力いただき、スポーツの振興と地域の活性化に取り組んでいただくことをお願い申し上げます。

結びに、松江体育協会が今後ますます発展され、松江市の体育及びスポーツ振興に大きな役割を果たされますことを祈念いたしまして発刊に寄せる言葉といたします。





発刊によせて

松江市教育委員会

教育長 藤原 亮彦

公益財団法人松江体育協会が創立100周年という記念の年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、ここに記念誌を刊行されますことを重ねてお祝い申し上げます。

協会は、大正13年5月に松江市連合青年会が中心となって、最初に陸上競技の充実を図ることを目的に結成され、大会や講習会などにより、組織の拡充に努めてこられました。今日では、36団体を統括され、地域スポーツの普及と振興に大きく貢献されていることに対しまして、深く敬意を表するものであります。

昨今の情勢として、令和2年に世界的な猛威を振るった新型コロナウイルス感染症が、世界中の人々の生活に影響を与え、あらゆるスポーツ活動や大会・イベントが自粛・中止等をせざるを得なくなりました。中でも東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は1年延期となり、無観客という制約の中での開催となりました。この未曾有の事態を乗り越え、新型コロナの影響前のスポーツのある日常に向け活動が再開します。コロナ禍を経て、観客の声援が戻り、スポーツが本来の形を取り戻して開催された、パリ2024オリンピック・パラリンピック競技大会においては、アスリートたちが熱戦を繰り広げ、日本に喜びと希望をもたらし、子どもたちに夢を与える契機となりました。このことはより一層、地域住民が運動・スポーツに関心や親しみを持つ大きなきっかけとなり、地域住民に身近な存在である体育協会の役割も増大してくるものと考えております。

そして、5度目のオリンピック出場を果たし、日本テニス界の歴史を塗り替えた錦織圭選手に続き、松江市から世界に羽ばたくアスリートが多数輩出されています。テニスの細木咲良選手、レスリングの小野こなみ選手や坂根海琉子選手、バスケットボールの山本遥香選手、フェンシングの津森志道選手など、松江市出身の選手が、輝かしい成績を残し、世界レベルでの活躍をする場面が増えてきています。このことは、競技力向上やジュニア選手の育成などに積極的に取り組んでいただいている貴協会にとりまして大きな励みになると存じます。

教育委員会としても、子どもから高齢者までの幅広い年齢層で運動やスポーツに親しみ楽しむことができるように、貴協会や関係団体の皆様と一緒に、これまで以上に連携を深め、進めてまいりたいと思っています。

結びに、松江体育協会が創立100周年という節目を契機に更なる発展を遂げられますことをご祈念するとともに、本誌編纂にあたりご尽力された方々に対し、深く感謝申し上げます、お祝いの言葉といたします。



創立100周年実行委員会委員長
(松江体育協会総務企画委員長)

金山滉

松江体育協会は、大正13年5月1日に「普く・絶えず・正しく」のスローガンのもと「広く体育・スポーツの振興に関する事業を行い、もって住民の体力の向上に寄与する」ことを目的に創立され、今年で100周年を迎えたところです。

松江体育協会発足の産声は、大正2年10月31日までさかのぼります。松江市連合青年会の結成を記念して開催された「陸上大運動会」がそのきっかけとなりました。この大会は、山陰両県はもとより兵庫・山口県からの参加もあり、山陰オリンピック（現：全山陰陸上競技大会）にまで発展しました。然しながら回を重ねる中で組織の若返りと運営の近代化の必要から、大正13年5月1日に「松江体育協会」としてあらためて組織化されました。

その後、松江体育協会は昭和54年7月2日に財団法人として認可され、さらに平成25年4月1日には「公益財団法人松江体育協会」として改めてスタートを切ったところです。

「陸上大運動会」をきっかけとし結成された松江体育協会は、現在では36競技団体が加盟し、各種競技の普及、選手の育成強化など広く体育・スポーツの振興を図っているところです。

この間、津田晴一郎選手（1928年アムステルダム五輪、1932年ロサンゼルス五輪、陸上、マラソン）、森山（旧姓福田）時雄選手（1936年ベルリン五輪、陸上、400MH）、古橋（旧姓塩川）美知子選手（1972年ミュンヘン五輪、バレーボール）、金津義彦選手（1984年ロサンゼルス五輪、1988年ソウル五輪、フェンシング、フルーレ）、田部仁一選手（1992年バルセロナ五輪、フェンシング、エペ）、中村康夫選手（1998年長野五輪、ボブスレー 4人乗り）、錦織圭選手（2008年北京五輪、2012年ロンドン五輪、2016年リオデジャネイロ五輪、2021年東京五輪、テニス）、渡利瑠穂選手（2016年、レスリング）のオリンピック、メダリストを輩出してきております。

今後も競技団体の皆様のご指導、ご尽力のもと1人でも多くの松江市出身のオリンピックが誕生するよう願うところです。

そして、本協会は、新たな 100 年に向け、多くの人々がスポーツに親しみ、競技力の向上、健康維持・増進、スポーツを通じて豊かな人生を構築するというスポーツ文化の継承のため、創立の精神を忘れず、少子・高齢化を迎えるなかで行政、関係団体の皆様と連携・協力しながら更なる高みを目指し努力して参りたいと考えているところです。

松江体育協会 歴代会長



初代
(大正13年～)
高橋 義比



第2代
(大正14年～)
高橋 節雄



第3代
(昭和4年～)
石倉 俊寛



第4代・第8代
(昭和20年～・昭和26年～)
熊野 英



第5代
(昭和20年～)
島田 兵蔵



第6代
(昭和22年～)
桜内 乾雄



第7代
(昭和24年～)
小林 誠一



第9代
(昭和38年～)
斎藤 強



第10代
(昭和52年～)
中村 芳二郎



第11代
(平成元年～)
石倉 孝昭



第12代
(平成5年～)
宮岡 寿雄



第13代
(平成12年～)
松浦 正敬



第14代
(令和3年～)
上定 昭仁



松江体協スローガン

普く 絶えず 正しく



スポーツ都市宣言

私たち松江市民は、スポーツを愛し、
スポーツをとおして健康な心とからだをつくり、
明るく豊かな松江市をきずくため、
ここにスポーツ都市を宣言します。

＊

1. 私たちは、毎日の生活にスポーツを取り入れます。
1. 私たちは、スポーツをとおしてしあわせな家庭と明るいまちをつくります。
1. 私たちは、スポーツをとおして活力のある豊かな松江をつくります。

平成18年10月8日

松 江 市

100th
ANNIVERSARY

特別寄稿

公益財団法人松江体育協会
前会長 **松浦 正敬**

松江市体操連盟
顧問 **園山 哲也**

島根大学名誉教授
齋藤 重徳

スポーツでまちづくり ～スポーツコミッション～

公益財団法人 松江体育協会

前会長 松浦 正 敬



松江体育協会創立100周年おめでとうございます。私はそのうちの約21年会長職を務めました。長いだけで、何の実績も上げられなかったことを恥じるばかりです。

私はスポーツ振興にあまり熱心な市長とは言えませんでした。スポーツというと、競技スポーツと地域スポーツに大別され、どちらかというと前者に力点が置かれてきた感がありますが、その目指す目標や効果が明確でない、あるいは、明確にされてきませんでした。少なくとも私には、競技スポーツのレベルを上げていくことが、地域づくりやまちづくりにどれだけの効果をもたらすものかが認識できませんでした。

例えば、大谷翔平のようなスーパーヒーローが育った地域では、彼の活躍で、地域の一体感や盛り上がりといった効果はみられるかもしれませんが、永続的な効果は期待できません。また、本市出身の錦織圭選手の活躍を松江市と結び付けて、テニスのまち松江として売り出そうとしましたが、いろいろな制約があつてうまくいきませんでした。

競技力向上を目指す目標や効果が明確でないということは、そのために人的物的投資をすることが、必ずしも市民から評価されないことにつながります。率直に言えば、スポーツ関係者の悩みもこのことに尽きるといっても過言ではないと思います。

話は変わりますが、観光宣伝のためシンガポールを訪れ、日本の旅行会社の現地支店の人と話をしていた時のことです。「今旅行会社では担当部を作るなどスポーツイベントに力をいれており、日本への観光旅行の中に、スポーツイベントへの参加を組み込むことを考えている。松江でもスポーツイベントの中に外国人客を作ったら、参加者も増えるし、地元にお金を落としてくれるのではないか。」との話。本当に、目からうろこ、わたりに舟でした。

こうした仕組みは、観光都市松江にうってつけの仕組みとなり、かつ、世界中に観光地松江を売り出すことができるのではないかと、また、参加者が安定的に確保できれば、イベント開催の安定化ひいては、スポーツ振興にも資する、一挙両得だと思いました。

これまで、スポーツ関係者だけでイベントの企画運営を考えてきたため、こうした発想は生まれませんでした。丁度、スポーツ振興計画を策定しようとしていましたので、その中にこうした発想を取り入れたら、他自治体にはない松江らしい計画ができると考えました。具体的には、スポーツコミッションという組織を立ち上げ、スポーツ関係者だけでなく、観光関係者や経済関係者などにも参加してもらい、イベントを多角的に支えてもらうこととしました。また、これまでスポーツ部門は教育委員会が担当していましたが、これを政策部に移して、総合的な立場から検討する体制としました。これにより、私の心の中の疑問、すなわち、スポーツ振興に人的物的な行政投資をすることがどうかという疑問が払しょくされました。松江体育協会におかれては、このスポーツコミッションを大いに活用され、次の100年に向かってまい進されますことを祈念しています。





松江陸上競技場 (昭和グランド) のあしあと

島根大学名誉教授

齋藤重徳

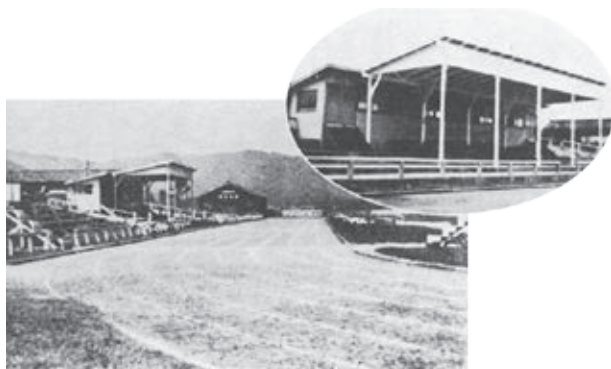


■全山陰陸上競技大会と松江体協

全山陰陸上は、大正2年に松江市総合青年会が宍道湖畔天神埋立地で初めて陸上大運動会を開催して以来、城山二の丸練兵場、末次埋立地と会場を移し、その名も全山陰オリンピック大会と称して山陰スポーツ界の発展に大きく寄与してきた。その立役者であった総合青年会の体育部の解散と共に後を引き継いだのが松江市体育協会（のちに松江体協に変更）の始まりで、運動場建設の必要性を市当局に強く訴え、その甲斐あって約10か月の建設工事を費やし、昭和4年9月に誕生したのが昭和運動場である。

■山陰一の近代的な競技場

この運動場はのちに昭和グランドともいわれ、松江市南田町の東端（旧松江高校隣り）の田圃に造設され、東に嵩山から出雲富士（大山）が眺められ、西は千鳥城（松江城）が森の中から威容を現しているという絶景の位置にあり、西側には土盛りのスタンドがあつて約1400名の観覧者を収容することが出来、そしてトラックの外側には排水溝を境として2万人を収容しうる一般席を備える広大なものであつた。その当時にはフィールド内に跳躍競技や投てき競技の施設は勿論のこと、その他にも中央にはバレーボール、バスケットボールコートが設けられ、まさにスポーツの中核を担う運動場であつたといえる。



昭和運動場竣工（1929年／昭和4年）
（松江体育協会所蔵データ）



体操祭（1943年／昭和18年）
（松江体育協会所蔵データ）

■吉岡隆徳選手（島根師範時代）のエピソード

のちにロサンゼルス・オリンピックの100m競走に出場して6位入賞という快挙を果たした吉岡選手は、島根師範時代には全山陰陸上にも積極的に出場しており、昭和4年の新競技場竣工記念第16回大会でのエピソードを彼自身の自叙伝で吐露している。それは出場した200m予選で吉岡選手にとっては決勝進出がほぼ決まっていたようなレースで、力を抜いた軽い走り、俗に「流す」という言葉があるが、流してゴールしたのである。その走りを大会会長でもあった松江市長が見ており、「あの走り方は何だ・・・」との逆鱗に触れ、吉岡選手1人が再レースをさせられたというものである。吉岡選手もスポーツマンとしての在り方を内省するとともに、その後の競技会でのレースの取り組む姿勢が変わり、その後の成績向上に大きく影響を与えてくれたと述べている。



■戦時中グライダー訓練場と化す

昭和グラウンドは昭和18年には軍管理の工場用地となり、陸上競技と野球場のスタンドを取り払ってグライダー訓練場として使用した。戦時中にひどく荒廃して工場建築資材が乱雑に集積されていた陸上競技場は、松江体協の尽力のもと取り急ぎ片付けられ、僅か3ヶ月後の11月には戦後復興体育大会を開催して大成功を収めるという快挙を成し遂げている。この大会は、敗戦という予期しなかった現実には国民は虚脱状態だった時にもかかわらず、大会総裁を島根県知事が担うなど県を挙げての復興大会となり、陸上競技のほかバレーボールやバスケットボールなども行われている。

■雨の昭和グランド

全山陰陸上は開催が春季の2日間で実施されることが多く、たびたび雨に降られて大変な思いをしたことを思い出す。屋根があって雨を避けられる場所というスタンド中央の狭い本部席と100mスタート後方にあった倉庫しかなく、選手のほとんどはその倉庫を利用していた。倉庫の中には昔ながらの垂れ流しのトイレがあり、多くの選手が駆け込むと人息きれや蒸し暑さでムンムンするとともに、トイレの異臭がひどく鼻に憑くのは仕方ないことであった。選手が競技に集中するのは当然であり、「心頭を滅却すれば火もまた涼し」の心境だったのかも知れない。

グランドも雨が降るとぬかるむばかりでなく、石灰で引かれたラインも消えて係の人を困らせた。ひどいときには田植えができるような状態になることもあり、砲丸投げのピットなども排水が悪くて水が溜り、投げられた砲丸の痕跡を手探りで探すということもあった。グランドの土の管理も大変で、その頃グランドに多く使用されていたのが水はけの良いとされたシンダーという石炭殻を使った人工土が主流であったように思う。のちにアンツーカーというレンガを粉碎して作られた赤褐色の人口土も開発されており、昭和39年に開催された東京オリンピックの主会場となった国立競技場にはこのアンツーカーが使用され、フィールドの芝生の緑とトラックの赤のコントラストが素晴らしかったことを覚えている。昭和グランドにはアンツーカーは使用されなかった。

■昭和グラウンドがくにびき国体で終わりを告げる

これまで多くの競技会が開催されて数々の記録を生み、また様々なドラマが展開されてきた昭和グランドは、街の身近にあって多くの人々から親しまれてきたが、52年10月10日の松江市民体育祭をもって幕を閉じた。その後は、昭和57年のくにびき国体開催の補助競技場として53年上乃木に新設された松江総合運動公園補助競技場に移り、それまで昭和グランドで開催されていた競技会のすべてがそこで行われるようになった。この頃には、昭和グランドを川津グランドと呼ぶこともあり、乃木のグランドに対して使われていたように思う。



松江市総合体育館付近航空写真（1960年代）
出典：国土地理院ウェブサイト
URL:<https://maps.gsi.go.jp/#17/35.472248/133.063563/&base=ort&ls=ort%7Cgsi-compare-photo&blend=0&disp=1&lcd=gsi-compare-photo&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m>



100th
ANNIVERSARY

松江体育協会 100 年の足跡
1924 年～ 2025 年



松江体育協会 100年の足跡

1924年（大正13年）

- 5.1 松江体育協会発足
会 長 高橋義比（市長）
副会長 古井善之助、高梨秀善
体協会章決定
常務理事園山重之考案による青色M
と赤色Aを組合せた「M」を採用、
現在に至る。
- 5.25～26 第12回山陰オリンピック大会開催
津田晴一郎（松中）10哩出場
- [内外の動き]
- 1.26 今上天皇、皇后陛下御成婚
1.26 島根県体育協会創立

1926年（大正15年）

- [内外の動き]
- 12.25 大正天皇崩御される。

1927年（昭和2年）

- － 大正天皇の崩御、諒闇のため山陰オリ
ンピック大会中止。
- [内外の動き]
- 12.29 白濁大火、15mの西風で灘町、天神町、
寺町、焼失236戸、12,800㎡を焼く。

1928年（昭和3年）

- 6.9～10 末次埋立地最後の第15回全山陰陸上
競技選手権大会（今回より名称変更）
開催。
- 12.24 総合運動場の工事着工
- [松江市出身選手の活躍]
- 津田晴一郎 アムステルダム五輪 陸上（マラソン）
出場 6位入賞
- [内外の動き]
- 7.1 松江城山を城山公園と名づける。

1929年（昭和4年）

- 9.20 昭和運動場竣工
総面積17,713坪、フィールド2,889坪、
トラック400m×10m 1,163坪、外
に200mの直線コース、その面積238
坪、トラック外周道路3m617坪、メ
インスタンド土盛1,335坪（スタン
ド12段、田町更生会がつくり市は年
賦償還）、観覧席平地（トラック周
辺）1,836坪、附属地9,224坪、総工費
55,949円。
- [内外の動き]
- 7.16 第1回松江水郷祭行わる。
8.20 第4代松江市長に石倉俊寛就任。
10.17 松江競馬場開場式（浜乃木）

1930年（昭和5年）

- 12.12 昭和運動場を乙種競技場として日本陸
連公認
- 12.－ 忌部スキー場開場
- [内外の動き]
- 4.1 松江市営ガス開業

1931年（昭和6年）

- 5.27 第1回体操祭が県下一斉に行われ、松
江市では、昭和運動場に800名が参加。
島根県中等学校体育大会はじまる。
- [内外の動き]
- 5.16 東本町ほか6町大火、628戸焼失、焼跡
の土で競技場の周りスタンドをつくる。

1932年（昭和7年）

- 6.－ 宍道湖一周継走大会（4区56km）を
実施
昭和13年の7回まで続き、現在の駅
伝競走のはじまり。
- 7.17 松江野球場竣工
面積5,150坪、内野27.27m、四方面



1924年～1945年

積225坪、外野南北131m、東西平均90m、スタンド854坪。その他通路等、設置費34,500円。

「松江市出身選手の活躍」

津田晴一郎 ロサンゼルス五輪 陸上（マラソン）
出場 5位入賞

「内外の動き」

3.7 床几山に NHK 松江放送局開局
(JOTK) ラジオ体操が普及します。

1933年（昭和8年）

「内外の動き」

10.29 岸清一博士歿す。

1934年（昭和9年）

5.26～27 松江体協創立10周年記念第21回全山
陰陸上競技選手権大会（女子選手出場
で賑う）

「内外の動き」

4.30 松江市公会堂竣工
11.10 新大橋2代目開通
総工費36万円。

1936年（昭和11年）

1. - 日本陸連の臨時総会において、山陰陸上競技協会（昭和9年創立）が正式に承認され、従来松江体協がもっていた山陰地方の代表権をこの協会に譲渡した。事務局は従来通り松江体協に置いた。

[松江市出身選手の活躍]

森山(旧姓 福田)時雄
ベルリン五輪 陸上(400MH) 出場

1937年（昭和12年）

[内外の動き]

4.14	中原大火252戸全焼。
6.12	松江市役所を松江支庁に改称。
10.18	松江大橋竣工

1938年（昭和13年）

[内外の動き]

8.18 県立松江高女全焼
11. - 楽山公園松平家より松江市に寄贈。

1939年（昭和14年）

10.31 岸運動場松江市に寄付さる。
工事費凡そ2万円、勤労奉仕者延人員
4千余名、昭和14年6月1日起工、同
年10月31日完成。

1940年（昭和15年）

4.20 岸運動場開場式（床几山）

1942年（昭和17年）

4.8 日本国内のスポーツは、国民体育錬成の元締めとして、大日本体育会に統轄され、陸上競技連盟は陸上競技部として体育会に所属し、松江体育協会は大日本体育会松江支部となる。

1944年（昭和19年）

4.24 松江体育協会解散
大日本体育会鳥根県支部の結成に伴い、松江体育協会も県支部につながる松江支部となる。

1945年（昭和20年）

3. - 松江運動場軍管理工場用地となり、スタンドのこわし始まる。
(走路圏は山根正元主事の手により壊さないよう守ったため戦後復興に役立った。)

12.24 松江体育協会再建発起人大会
白潟小学校音楽室に約40人のスポーツ愛好者が集まり開催





松江体育協会100年の足跡

1946年（昭和21年）

1. - 松江体育協会結成式
1. - 松江体協結成と同時に松江運動場の再建期成同盟会をつくり、強力に復興運動を興す。

1949年（昭和24年）

- 4.30 二の丸庭球コート2面完成（面積800坪）
- . - 椿谷コート2面をつくり、第1回中国五県バレーボール大会を開く。
- 7.1 松江野球場大改修工事終る。
戦時中スタンド全部取払い県のグライダー滑空練習場となり、球場として使用が出来なくなっていた。
本塁中堅367呎、左右翼304呎、本塁バックネット間60呎、スタンド収容人員15,000人

〔内外の動き〕

- 8.15 白濁大火
- 11.8 仮市庁舎完工、公会堂旧に復す。

1950年（昭和25年）

- 6.1 末次埋立地プールが老朽化したため代って白濁プール竣工。
面積5,207㎡、長さ50m、巾20m、9コース、深さ1.2m～2m、収容人員500人の木造観覧席
10. - 椿谷コート拡張工事（バレーボールコート4面増）始まる。

〔内外の動き〕

- 5.30 末次埋立地のプールを撤去し、跡地に松江競輪場を設置、第1回競輪を実施。

1951年（昭和26年）

- 4.23 岸記念運動場改修工事
- 7.31 椿谷球技場改修工事完成
バレーコート6面、周りに木製スタンド設置

6. - 城山武徳殿弓道射場を復旧建設

〔内外の動き〕

- 3.1 松江市が国際文化観光都市の指定を受ける。

1952年（昭和27年）

〔内外の動き〕

- 11.1 松江市教育委員会発足
教育長 金山 千

1953年（昭和28年）

- 5.23～24 体協創立30周年記念第37回全山陰陸上競技大会開催

〔内外の動き〕

2. - NHK テレビ 枕木山放送開始
- 9.29 松江競輪場撤去（末次公園）

1957年（昭和32年）

- 9.11 総合運動場建設期成同盟会発足
既設の運動場の改修整備を行い、第2の運動場建設を促進する。

1958年（昭和33年）

- 7.10 松江市教育委員会に体育課新設
課長 和田 正則
- 8.17 松江有料道路の完工を機に、全国規模の玉造毎日マラソンを創設。

1962年（昭和37年）

- . - 白濁体育館建設工事着工
鉄筋、鉄骨2階づくり 延200坪

〔内外の動き〕

- 6.1 市庁舎竣工（教育委員会〔体協事務局同居〕も興雲閣から移転）
市機構改革 出張所を廃止
- 10.25 市立白濁小学校改築竣工



1946年～1972年

1963年（昭和38年）

- 1.27 松江市スポーツ少年団本部設置
本部長 松江市教育長
- 5.18 松江市立体育館竣工（白湯小体育館）
バスケットコート1面、バレーボール
コート2面、バドミントンコート6面、
柔道畳止柵 50畳2組、体操用具 一
式、2階正面固定席200脚（5段）、両
側折たたみ椅子240脚、1階折たたみ
椅子1,200脚 計1,640席

1964年（昭和39年）

- | | |
|----------|---|
| 5.9 ～ 10 | 第48回全山陰陸上競技大会
松江体協創立40周年にあたり23氏に
感謝状贈呈 |
| 9.23 | 第18回東京オリンピック大会
聖火歓迎第15回松江市中学校陸上競
技大会開催、競技場に聖火燃ゆ。聖火
松江に2泊 |
| 9.30 | 岸清一博士銅像復元除幕式
国際オリンピック委員会会長ブラン
デージ氏参列 |

「内外の動き」

- 10.10 ～ 24 第18回東京オリンピック開幕
金メダル受賞
体 操 5 ボクシング 1
レスリング 5 女子バレー 1
柔 道 3 重量あげ 1

1965年（昭和40年）

- 3.11 体協組織の改正
従来の部制を廃し、種目別競技団体を
独立加盟とする改革で、加盟団体24
団体となる。
- 4.1 体育課を廃し、社会教育課に統合。
課長 和田正則
- 5.21 岸記念賞をつくる
岸博士銅像復元事業期成同盟会で募金
の一部をもって岸記念賞（木の楯にブ

ロンズ像をはめる）40個をつくり市
体協へ15個交付され、市は加盟団体
の推薦により表彰することとした。

1967年（昭和42年）

- －.－ 史跡松江城環境整備事業により椿谷コートは廃止し公園となる。

「内外の動き」

- 1.－ 市立女子高西尾町に新校舎完工、移転

1968年（昭和43年）

- 1.15 第1回体協新年賀会
レークガーデンにおいて開催、以後恒
例となる。
- 5.－ 松江陸上競技場二種公認工事完工

1970年（昭和45年）

- 8.26 体協改組委員会を開き、12月15日に
新規約制定
- 12.－ 史跡松江城整備事業により、二の丸テ
ニスコート廃止にきまる。

1971年（昭和46年）

- 2.2 新規約により理事長に和田正則就任。
5. - 日本陸連青木伴治理事長上乃木運動公園予定地を視察
8.20 市教育委員会事務局に体育課を復活

「内外の動き」

- ## 2.3 豪雪

1972年（昭和47年）

- 1.15 松江体協会報創刊号刊行
[松江市出身選手の活躍]
古橋（旧姓 塩川）美知子
ミュンヘン五輪 バレーボール出場
銀メダル





松江体育協会100年の足跡

〔内外の動き〕

- 7.1 宍道湖大橋開通（有料橋）
7.11 80年振りの大洪水

1973年（昭和48年）

- 4.24 理事長に桂隆義就任、和田正則副会長に就任
5.18～19 体協創立50周年記念第57回全山陰陸上競技大会
沢木啓祐、新谷誠規ほか10名の招待選手を迎え、盛大に開催
50周年記念表彰として石倉俊寛ほか48氏故人福岡重徳ほか9氏を表彰
11.3 体協創立50周年記念事業として、松江郷土館に郷土のスポーツ人、顕彰展を行う。

〔内外の動き〕

- 11.27 松江市総合体育館建設事業費募金委員会発足
目標額 11億9千700万円（総事業費）

1974年（昭和49年）

- 4.13 白潟小学校校庭に湖上ライオンズクラブの提供（資金250万円）を得て夜間照明施設完成し点灯式。
5.8 島根県第37回国民体育大会準備委員会設立
6.－ 城山二の丸テニスコート撤去さる。
8.17～18 第1回松江・宝塚姉妹都市スポーツ少年団交歓会（松江市）
11.3～4 松江球場さようなら行事、市内中学校3試合、市内高校3試合、市体協加盟会員3試合、市議対体協OB戦を行うほか功労者表彰、お別れパーティーを開く。

1976年（昭和51年）

- 3.6 楽山公園仮設野球場開き
4.3 松江市総合体育館開館

- 5.14～16 第60回記念全山陰陸上競技大会
11.6 松江市総合体育館2期工事として、屋内プール（温水プール）竣工
11.28 体育館竣工記念 モントリオールオリンピック帰朝体操実演会

〔内外の動き〕

- 4.1 財団法人松江市教育文化振興事業団発足

1977年（昭和52年）

- 4.13 松江市地域体協連合会結成
会長 角 吉郎（19地域）
10.10 さようなら陸上競技場、第12回松江市市民体育祭を開催、競技場建設に功労のあった故高橋節雄氏、故石倉俊寛氏並びに松江体育協会に市長より感謝状と記念品を贈る。
12.21 総合体育館正面にあすなろ像建立除幕式を行う。
ブロンズ像日展入選作品を荒木文夫氏寄贈（体育館に保管）
台座、台石 前畑勝太郎氏（前畑産業）

1978年（昭和53年）

- 3.27 松江市議会において、松江市スポーツ都市宣言を制定。
3.30 松江総合運動公園市営陸上補助競技場竣工第3種公認陸上競技場に認定される。
総面積 18,550㎡
グラウンド 15,180㎡、
スタンド 2,675㎡、その他695㎡
トラック 400m6コース
シンダー舗装
140m8コース
2コース 全天候
フィールド 走高跳1、走巾跳2、三段跳2、棒高跳1、やり投1、円盤投1、ハンマー投1、サッカー1を設備。
工 費 9千2百万円



1972年～1981年

9.1

松江市総合運動公園市営野球場竣工
敷地面積 24,400㎡
構造 銀傘付鉄筋コンクリート造3階
建（スタンド形式）
規模 グランド両翼92m、中堅線
120m、本塁後方23.5m
面積 グランド13,830㎡
（内野3,895㎡、外野9,935㎡）
建物面積（メインスタンド）
1,294㎡、スタンド敷地、内野、
外野スタンド8,833㎡、その他
443㎡
収容人員 メインスタンド1,900人
内野3,900人
外野スタンド9,200人

計 15,000 人

付帯施設 ダッグアウト2、本部、審判員室、選手控室2、電光掲示板、バッテリーゲージ等完備。

9.22 ~ 24

市営補助競技場竣工記念第62回全山
陰陸上競技大会開催

11.10

県体協活動募金4,505,000円を完納する。

松江市総合体育館建設募金と合せて、体協関係で募金活動、3ヵ年間で募金完了。体育館分として松江市募金委員会に500万円を納入。

「内外の動き」

10.15

松江市スポーツ都市宣言の公布式
 体育の日の市民体育祭において発表を
 計画していたが、当日及び予備の15
 日も雨のため実施できず、庁舎内で挙
 行、記念して地域体協功労者20人を
 表彰する。(公布日は10月10日)

1979年（昭和54年）

1.15

スポーツ人新年総会。
1時30分からレークガーデンにおいて、360名のスポーツ人が参集総会を開く。

宣言決議

1. 松江体育協会の法人化
2. 顕彰事業 陸上競技場、野球場跡
記念碑建立、史誌編さん、島根国
体を通じ、岸博士はじめ郷土出身
有名スポーツ人の表彰。
3. スポーツ施設の整備充実の促進。
島根国体に向けて力強く第一歩を
ふみだした。

4.10

財団法人松江体育協会設立発起人会並びに第1回評議員会を開催。

- (1)寄附行為の審議
(2)役員を選任、専務理事の互選
(3)法人設立への移行措置

1980年（昭和55年）

5.30

松江市総合運動公園市営庭球場完工
敷地面積8,400㎡

構造 ハウス 鉄骨モルタル造り 2階建
100m²

コート 8面（4面宛、2施設）5,520㎡
練習コート、版面練習版つき
420㎡

スタンド 芝、一部コンクリート舗装
2.260m²

附帯施設 クラブハウス（更衣室、トイレ、シャワー、ロビー）

「内外の動き」

7.15

和田専務退任、河原専務理事就任。

10.10

第15回記念市民体育祭

1981年（昭和56年）

32

体協事務室を庁舎別棟3Fに移転独立。

331

松江市営陸上競技場竣工（メイン競技場）

敷地面積 36,274m²

メインスタンド 鉄筋コンクリート造り
1部3階

種別 第1種公認陸上競技場





松江体育協会100年の足跡

面積 グランド 22,506㎡
 建物 3,140㎡
 芝スタンド 10,628㎡
 収容人員 24,000人
 メインスタンド 一般席5,000人
 芝スタンド 19,000人
 競技施設
 1周400m 8コース
 (直走路部分141m) その他附帯施設
 工費 10億5千万円
 5.1～3 くにびき国体主会場竣工記念第65回
 全山陰陸上競技大会。
 5.18 くにびき国体炬火リレー委員会結成
 5.28 場内レクリエーション委員会
 6.13～14 くにびき国体 陸上競技 リハーサル
 大会(メイン競技場)
 9.23 くにびき国体 1年前総決起大会(松
 江市実行委員会主催)に参加。
 10.10 松江市営陸上競技場竣工記念第16回
 松江市民体育大会を盛大に行う。
 [内外の動き]
 4.1 B&G松江海洋センター開設
 敷地面積 19,651㎡、カッター、OP
 デインギー、1・2F ヨット、体育館

1982年(昭和57年)

- 1.15 天皇杯をめざした1,200名の総決起大
 会。松江市総合体育館の大体育室の四
 周を紅白で飾った会場に、“さあ天皇
 杯をめざし総力を結集して頑張ろう”
 のスローガンのもとに、特別来賓とし
 ての津田晴一郎、吉岡隆徳の先輩並び
 に斎藤名誉会長の激励を受け、競技種
 目団体代表の力強い決意表明、国体を
 必ず成功させようの宣言決議を採択、
 木原光知子講師から励ましの講演を聴
 き、くにびき国体を勝ち抜くことを
 誓った。
 3.14 第1回健康ひろば(国体演技)の第1
 回練習会(市営陸上競技場)

- 5.28 第37回くにびき国体松江市実行委員
 会発足
 7.4 松江市炬火リレーリハーサルの実施
 7.22 松江市炬火リレー採火式、休憩地(雑
 賀小、県民会館前)、引継式(鹿島町)
 リハーサル。
 8.10 郷土スポーツ人顕彰展開催
 8.28 健康ひろばの第5回練習会に吉岡隆徳
 氏を迎え全員が揃っての練習会。
 9.12 岸博士墓前祭
 県立プールでの夏季国体開会式の閉式
 を待って、寺町久成寺において岸清一
 博士の墓前祭を行なう。
 日体協から山口国体委員長、深川事務
 局次長をはじめ、県体協、市議会議長、
 市教育長、本会会長以下多数参列、読
 経、焼香を行ない、道徳を偲ぶ。
 9.23 くにびき国体集団演技総合練習会(国
 体会場)
 9.26 第37回くにびき国体模擬国体
 9.27 第37回くにびき国体炬火リレー
 10.2 くにびき国体炬火集火式
 10.3～8 第37回国民体育大会(くにびき国体)
 開会式
 10.8 第37回国民体育大会閉会式
 10.8 くにびき国体優勝祝賀パレード
 10.16 第18回全国身体障害者スポーツ大会
 開会式
 10.17 第18回全国身体障害者スポーツ大会
 閉会式
 11.16 郷土スポーツ顕彰展開館。

1983年(昭和58年)

- 1.15 鉄工会館において新年総会 参加325
 名
 3.20 第1回松江市地域スポーツ振興交換研
 修会を、松江市地域体協連合会と共催
 で実施。4分科会(参加105名)



1981 年～ 1992 年

1984年（昭和59年）

- 3.18 松江市地域スポーツ振興交換研修会
(青年センター)
21地域体協より165名が参加し、5分
科会に分れ各体協より実情発表、研究
協議。
- 4.27 創立60周年記念誌編纂委員会(第1
回打合会)
- [松江市出身選手の活躍]
- 金津義彦 ロサンゼルス五輪 フェンシング(フ
ルーレ)出場

1985年（昭和60年）

- 1.15 松江体協創立60周年記念新年総会
記念功労表彰（4名）、記念講演（津
田晴一郎氏）
- 3.30 南工場プール開館式
- 4.4～5 松江体協事務局を総合体育館に移転。

1986年（昭和61年）

- 1.15 松江体協新年総会特別講演（青田 昇氏）
7.27 松江陸上競技教室開校式

1987年 (昭和62年)

- 1.26 松江体協バドミントン講習会（総合体育館、婦人50名参加）

1988年（昭和63年）

- 5.7 松江地区レスリング協会設立総会（むらくも会館）
- 7.29～30 松江地区協サッカー講習会（乃木小学校）
- 8.20 第1回山陰レスリング大会（県立武道館）
- 〔松江市出身選手の活躍〕
- 金津義彦 ソウル五輪 フェンシング（フルーレ）出場

1989年 (平成元年)

- | | |
|-----------|--|
| 1.14 | 松江体協新年総会
松江体協財団法人発足10周年記念特別表彰（14名） |
| 8.18 ～ 26 | 全国中学校選抜体育大会（陸上、柔道、卓球） |
| 9.10 | 第1回島根県スポーツレクリエーション祭 |
| 10.21 | 松江地区ウエイトリフティング協会設立総会 |
| 12.21 | 第1回評議員会において、新会長に石倉孝昭氏、前会長中村芳二郎氏を顧問に推挙。 |

1990年（平成2年）

- | | |
|-------|----------------------------------|
| 3.31 | 松江市北庭球場、松江市北運動広場竣工 |
| 4.30 | 松江スイミングスクール開校10周年
記念式典（ホテル一畑） |
| 9.22 | ターゲットバードゴルフ協会設立総会 |
| 9.29 | グランドゴルフ協会設立総会 |
| 11.17 | 第1回グランドゴルフ大会（松江北公園） |
| 12.21 | 斎藤強賞創設 |

1991年（平成3年）

- | | |
|------|----------------------------|
| 1.15 | 松江体協新年総会特別講演（柴田 勲氏） |
| 2.17 | 第1回松江ウエイトリフティング競技大会（松江西高校） |
| 2.27 | 南工場プール管理棟竣工式。 |
| 5.12 | 第1回松江市バタング大会（市北運動広場） |

1992年（平成4年）

- | | |
|----------|---------------------|
| 1.15 | 第1回斎藤強賞表彰。 |
| 4.1 | 松江市スポーツ振興基金創設。 |
| 7.23～25 | 全国少年レスリング大会（市総合体育館） |
| 10.17～20 | 第5回全国スポーツレクリエーション祭 |





松江体育協会100年の足跡

- 10.18 松江市民スポレクデー（市総合運動公園他）
11.19 スポーツ健康大学創設準備委員会（市生涯学習センター）

[松江市出身選手の活躍]

- 田部仁一 バルセロナ五輪 フェンシング(エペ)出場

1993年（平成5年）

- 3.28 松江体協事務局を市生涯学習センターに移転
4.1 松江スポーツ健康大学創設
8.1 くにびきメッセ竣工記念早慶レガッタ（松江大橋川）
8.27 松江市生涯スポーツ推進協議会設立総会（ホテル白鳥）
12.17 評議員会において、新会長に宮岡寿雄氏、前会長石倉孝昭氏を顧問に推挙。

1994年（平成6年）

- 4.13 松江体協創立70周年記念事業実行委員会（県婦人会館）
8.1 松江体協創立70周年記念事業協議会（事務局）

1995年（平成7年）

- 1.16 松江体協創立70周年記念新年総会（ホテル一畑）
70周年記念特別表彰（2名）、記念表彰（4名）、記念講演（生沼スミエ氏・横溝三郎氏）
2.7 松江体協創立70周年特別事業打合せ会（事務局）
7.31～8.6 全国高校総合体育大会（バドミントン、バレーボール男子）
9.4 松江体育協会が、日本陸上競技連盟70周年特別表彰式において普及功労表彰（東京）

1996年（平成8年）

- 4.9 松江体協事務局を市役所に移転。

1997年（平成9年）

- 6.7 第80回全山陰陸上競技大会記念式典。

1998年（平成10年）

- 4.1 (財)松江体育協会業務を、(財)松江市教育文化振興事業団へ移管。
4.7 松江体協事務局を市総合体育館に移転。

[松江市出身選手の活躍]

- 中村康夫 長野五輪 ボブスレー(4人乗り)出場
小村徳男 サッカーフランスワールドカップ出場

1999年（平成11年）

- 4.27 道の駅秋鹿なぎさ公園竣工
7.20 北公園ミニ遊園地開園
10.10 松江市制施行110周年記念第27回市民体育祭。

2000年（平成12年）

- 9.28 評議員会において、新会長に松浦正敬氏を推挙。

2001年（平成13年）

- 8.17～20 全国中学校バスケットボール大会（市総合体育館他）松江市立湖東中学校(男子)が初優勝。

2002年（平成14年）

- 4.1 (財)松江体育協会情報公開規則・文書取扱規則の制定。



1992年～2010年

2003年（平成15年）

- 6.25 松江体協創立80周年記念事業検討委員会（市総合体育館）

2004年（平成16年）

- | | |
|-----------|---|
| 8.1～20 | 全国高校総合体育大会（バスケットボール、卓球、ソフトテニス、水泳） |
| 8.4～10.11 | 松江体協創立80周年および全国高校総合体育大会開催記念「伝統と栄光のスポーツ展」（松江郷土館） |
| 10.17 | 松江体協創立80周年記念「まつえサッカーフェスタ 2004」（講師・松木安太郎氏） |
| 12.10 | 松江体協創立80周年記念誌「20年のあゆみ」発刊 |

2005 年 (平成 17 年)

- | | |
|------|--|
| 1.16 | 松江体育協会創立80周年記念総会。
記念表彰（10名）記念講演（中京大
学教授・室伏重信氏） |
| 2.16 | 松江体育協会創立80周年記念事業検
討委員会開催。 |
| 3.9 | 南工場プール担当理事会開催。 |
| 3.31 | 松江市、八束郡7町村と合併。 |

「松江市出身選手の活躍」

矢地謙太郎（松江高専）

世界ボート選手権ジュニア大会出場

2006年（平成18年）

- | | |
|-------------|--|
| 1.14 | 松江体育協会新年総会。松江テニス協会 錦織圭選手 特別功労賞受賞 |
| 7.26 ～ 8.25 | スポーツ教室事業実施「夏休み小学生バスケットボール教室（54名）10回実施」 |
| 8.1 | 情報提供事業実施「ホームページ開設」 |
| 10.8 | 松江体協に関する情報発信を開始。
新松江市合併記念市民体育祭種目別対抗リレーに加盟団体12チーム参加。 |

[松江市出身選手の活躍]

錦織 圭 全仏オープンテニス ジュニア ダブルス優勝

2007年（平成19年）

- 7.23～8.17 夏休み小学生スポーツ教室実施（10回・20名）
11.26～12.3 実践スポーツトレーナー講習実施。（計3回）

「松江市出身選手の活躍」

辰巳悦加 陸上世界選手権女子 3000m 障害出場

2008年（平成20年）

- | | |
|-------------|--|
| 3.5 | 総務企画委員会開催。錦織圭選手の活躍の対応について協議した。 |
| 3.14 ~ 4.14 | 錦織圭選手を応援する懸垂幕を松江市庁舎正面玄関前に設置。設置セレモニー実施。 |
| 7.22 ~ 8.11 | 夏休み子どもスポーツ教室実施（10回・26名） |
| 11.25 ~ 28 | 実践スポーツトレーナー講習実施（計3回） |

「松江市出身選手の活躍」

錦織 圭 北京五輪 テニス出場

2009年（平成21年）

- | | |
|----------|-------------------------|
| 1.19 | 役員会開催。宣言決議について協議。 |
| 7.24～8.7 | 夏休み子どもスポーツ教室実施（10回・22名） |
| 11.24～30 | 実践スポーツトレーナー講習実施（計3回） |

2010年（平成22年）

- | | |
|----------|-----------------------|
| 7.20～8.4 | 夏休み子どもスポーツ教室（10回・16名） |
| 8.19～22 | 全国中学校柔道大会（松江市総合体育館） |
| 9.13 | 松江体協事務局を市役所に移転。 |





松江体育協会 100年の足跡

- 9.24 松江法務局へ変更登記申請書を提出。
 11.22・25・29 実践スポーツトレーナー講習開催
 (計3回)
[松江市出身選手の活躍]
 藤田のぞみ FIFA U-20 女子ワールドカップド
 イツ 2010 出場

2011年 (平成23年)

- 6.1 新年総会に関するアンケート調査実施。
 8.1 松江市、八東郡東出雲町と合併。
 10.2 松江開府400年博覧会「特別巡回ラジ
 オ体操・みんなの体操会」(松江北公園)
 11.10 中央講師招聘事業「転倒防止のコツ伝
 授講習会」開催。
 11.21～28 実践スポーツトレーナー講習開催
 (計3回)

2012年 (平成24年)

- 7.13～15 浙江国際伝統武術大会派遣事業(中国)
 松江太極拳協会
 9.10 2020年オリンピック・パラリンピッ
 ク競技大会東京招致に向けた支援決議
 10.17～11.14 実践スポーツトレーナー講習会実施
 (計5回)
[松江市出身選手の活躍]
 新宮有衣 IBAF女子野球ワールドカップ(エド
 モントン大会)優勝
 錦織 圭 ロンドン五輪 テニス出場 5位入賞
 藤田のぞみ (松江二中出身)
 FIFA U-20 女子ワールドカップ
 ジャパン 2012 第3位
 金森和貴 (松江北)
 第14回世界ジュニア陸上競技選手権、
 4×100m リレー銅メダル
 須山晴貴 (湖東中)
 水泳男子板飛込、世界ジュニア選手権
 8位

2013年 (平成25年)

- 1.4 浦和レッズ所属藤田のぞみ選手(サッ
 カー) 市長表敬
 3.17～10.14 サポートチーム派遣事業実施
 (計6回)
 3.21 公益財団法人設立認可。
 3.29 市教育委員会主催「スポーツ指導者研
 修会」
 講師:眞藤邦彦氏(日本サッカー協会)
 4.1 公益財団法人登記
 4.4 姉妹都市にかかる二市体育協会の交流
 会(尾道市体育協会・松江体育協会)
 5.27 松江体協事務所移転。(市第四別館か
 ら市第三別館)
 7.26 総務企画委員会開催。体協創立90周
 年記念事業について、90周年記念ポ
 ロシャツの作成について。
 9.11 90周年記念事業準備委員会開催。
[松江市出身選手の活躍]
 青山聖佳 第8回世界ユース陸上競技大会メド
 レーリレー3位

2014年 (平成26年)

- 創立90周年記念実行委員会開催(5月
 ～3月計5回)
 3.15～7.27 サポートチーム派遣事業実施(計5回)
 9.9 錦織圭選手全米オープンテニス準優勝。
 11.5 松江市スポーツ指導者講習会
 「スポーツ指導者のための倫理ガイド
 ライン」開催
 講師 岡達生氏(公財)日本体育協
 会 スポーツ指導者育成部長
[松江市出身選手の活躍]
 錦織 圭 全米オープンテニス準優勝
 梶谷隆幸 日本野球機構(NPB)セントラルリー
 グ盗塁王
 新宮有衣 IBAF女子野球ワールドカップ(宮崎
 大会)優勝



2010年～2021年

2015年（平成27年）

- 1.12 創立90周年記念平成27年公益財団法人松江市体育協会新年総会
オリンピック（ロンドン五輪）の田中理恵氏を招聘してトークイベントを開催。
- 3.14 ～ 10.4 サポートチーム派遣事業実施（計5回）
- 11.5 松江市スポーツ指導者講習会開催
「グッドコーチに求められる資質能力とは」
講師 岡達夫氏（日本体育協会スポーツ指導者育成部長）

[松江市出身選手の活躍]

青山聖佳 (松江商高)

世界陸上北京大会 1600MR 出場

2016年（平成28年）

- | | |
|------|--|
| 4.16 | 松江市総合体育館 新体育館竣工 |
| 6.30 | 渡利璃穂選手市長表敬・激励会（リオデジャネイロオリンピックレスリング女子75kg級代表） |
| 8.9 | 全国高等学校総合体育大会新体操競技（松江市総合体育館） |
| 10.4 | 小原裕幸選手天皇盃出場結果報告（第67回全日本男子弓道選手権大会 優勝） |

[松江市出身選手の活躍]

錦織 圭 リオデジャネイロ五輪 テニス出場
銅メダル

渡利璃穂 リオデジャネイロ五輪 レスリング
(75 キロ級) 出場

2017年（平成29年）

- | | |
|---------|------------------------------------|
| 4.28 | 「FIMBA ワールドリーグ松江2018」
大会実行委員会開催 |
| 4.29～30 | 第100回記念全山陰陸上競技大会開催 |
| 10.14 | 宝塚市・松江市姉妹都市提携50周年
記念式典開催 |

2018年（平成30年）

- 8.17～24 平成30年度全国中学校体育大会 新体操・バレーボール（松江市総合体育館）
9.16 松江流おもてなし宣言

2019年（平成31年）（令和元年）

- 5.29～30 公益財団法人宝塚市スポーツ振興公社
への視察（宝塚市スポーツセンター）
8.11 中国・吉林市政府訪問団視察（松江市
総合体育館）

2020年（令和2年）

1. - 新型コロナウイルス感染症 国内初確認
2. ～ 10. 市民体育祭松江市ソフトボール大会・バレーボール大会・卓球大会・地区対抗大運動会
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止
10. - 新型コロナウイルス禍における新年総会・懇親会、スポーツ指導者講習会の中止を決定

2021年（令和3年）

2. ～ 10. 市民体育祭松江市ソフトボール大会・
バレーボール大会・卓球大会・ニュー
スポーツ大会
新型コロナウイルス感染症拡大防止の
ため中止
- 5.28 理事会において新会長に上定昭仁氏を
推挙
- 12.5 水谷隼選手トーク&卓球交流会（松江
市総合体育館）

「松江市出身選手の活躍」

錦織 圭 東京五輪 テニス出場 ベスト8





松江体育協会100年の足跡

2021年～2025年

2022年（令和4年）

- 2.～10. 市民体育祭ソフトボール大会・バレーボール大会・卓球大会（Bグループ）・地区対抗大運動会
参加少数のため中止
- 2.19 市民体育祭松江市卓球大会Aグループ（松江市総合体育館）（市民体育祭再開）
- 5.－ 松江市総合体育館内へ事務所移転

2023年（令和5年）

- 5.8 新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行
- 7.31 山本遥香選手市長表敬（FIBA U-19女子ワールドカップ日本代表キャプテン）
- 8.22 津森志道選手市長表敬
（2023世界ジュニア・カデ選手権大会・サーブルジュニア男子個人 銅メダル）
- 11.16 松江市総合体育館改修に伴う要望書の提出

【松江市出身選手の活躍】

- 山本遥香 FIBA U19 女子バスケットボールワールドカップ出場 6位
- 坂根海琉子 U20女子レスリング選手権大会 女子フリースタイル 50kg級出場 第3位

2024年（令和6年）

- 6.30 松江体育協会創立100周年記念事業「こどものためのスポーツ見本市」開催（松江市総合体育館）
未就学親子～小学3年生まで約1,500名が参加
- 7.12 松江歴史館企画展「松江のスポーツ今昔」（松江歴史館）
- 7.15 公益財団法人松江体育協会創立100周年記念 第54回市民体育祭松江市バレーボール大会（松江市総合体育館）
- 10.6 第39回市民体育祭「地区対抗大運動会」8年ぶりの開催（松江市営陸上競技場）

2025年（令和7年）

- 1.18 創立100周年記念令和7年公益財団法人松江体育協会 新年総会
100周年記念特別表彰（12名）を行う。
日本スポーツ少年団本部長の益子直美氏をお招きし、記念講演会を開催。



100th ANNIVERSARY

歴史を振り返る

貴重な寄稿文を再掲載しています

※役職については寄稿当時の役職をそのまま記載しています



松江体育協会の歩み

元松江市社会教育課長 和田 正 則

アクロポリスの丘の上に立った古代ギリシャ人が、立ちのぼる太陽を、力と美の神なるアポロとして祈り、永遠の美を誇るゼウスの神殿を造営したことは、古代宗教史から見ても、極めて自然の現象である。古代ギリシャ人の若人たちは、この神殿の前で、力と美と業を競い神に捧げたのである。

古い歴史と輝く伝統をもつ全山陰陸上競技大会の前身である青年陸上大運動会が天神裏で呱呱の声をあげたのは、大正二年十月市当局の指導により、松江市内各町の青年会を統合しての松江市連合青年会が組織され、同会主催の下に、大正天皇御即位を寿ぐため十月三十一日初の天長節をトとして開催されたのに始まる。

大正三年の第二回大運動会は城山二の丸で行われたが、二千米競争に杵築中学四年生（現在の大社高校）の得能末吉選手が優勝、翌年再び優勝したのでこれをその年東京戸山学校で行われた第三回全国陸上競技大会（現在の日本選手権）の五千米に出場させてみたところ、見事優勝して帰郷したことは地方の人々を大いに驚かし陸上競技熱が急激に高まる動機ともなったのである。

大正五年の第四回大会から会場を末次埋立地に移して行われ、大会の名称もそれまでの大運動会からいち早く山陰オリンピック大会と改め、若人の血を一層沸きたたせたのであったが、日本が末だ明治から大正へと大きな転換期にあったとき、全国に先がけて山陰の一角松江市でこのような爆発的な競技会が開かれたことは、山陰陸上競技会に飛躍的な発展をもたらすことになったのである。

創設当時は今のような立派な設備のグラウンドがあるわけでもなく、場内は羽織袴の役員が右往左往し、選手の格構は足袋はだしなどで黒帯を締めたりしており、また応援団は各町内ごとに繰出し、市民の熱の入れ方は、今日では想像も及ばない程熱狂的なものであったが、第四回大会から会期は二日間になり全山陰から青年および中学校の選手が参加するようになり年と共に盛大の度を加えるに至った。

その後近代スポーツに目覚めた若き青年たちによって大正十三年五月一日新しいスポーツ団体即ち松江体育協会が結成されこの年から山陰オリンピック大会の主催権は青年会から体協の手に還ったのであるが、その年日本陸上競技界でも改革をめざし日本陸上競技連合創立の動きが高まるや、山陰からは松江体育協会の鳥谷掌三氏が結成準備委員として中央から指名され、かくして十四年日本陸上競技連盟の誕生と共に山陰地域統轄の代表団体として加盟して重要な役割をつとめたが相次いでオリンピックに郷土出身者が加わり活躍するに及んで、発言権は大きくなり、日本陸上競技連盟の有力団体として重きをなすに至った。

松江体育協会の結成は全国でも東京、大阪、名古屋、広島などに次ぐ古いもので、体協幹部の卓越した見



松江体育協会がこの様にして中央スポーツ界と強いつながりを持ったことから常にスポーツ界の新しい動向が市当局にも伝えられ、松江市は高橋節雄市長時代に総合運動場の建設計画を定め、市の東郊法吉村（飛地）の田を買収して陸上競技場の建設に着手したのは、昭和三年のことである。

この総合運動場は中国地方に比べるもののない堂々たる施設であったことを思うとき、当時の関係者の功績は大いに贅えられてもよいものである。

施設の面では末次埋立地に島根県体育協会の五十米プールが岸清一博士の寄付と学生の勤労奉仕などによって昭和三年完成し、市営の軟式テニスコートが、今の島根神社の建っている上御殿跡に、四面の敷地に第一期の二面が完成また屋根付き立派な相撲場も城山入口の勢留りに出来上がるなど、日華事変が始まるまでは地方のスポーツ熱も上昇の一途をたどり頗る活発な展開ぶりを示したが、松江体育協会は組織として競技種目別の部制をもうけ、陸上競技のみならず水泳、庭球、卓球などにも山陰選手権大会を創始したほか、大正末期から昭和の始にかけて未開発の大山スキー場を舞台に地方スキー界の草分けとして開拓につとめ、今日の隆盛に貢献した人々のあることも忘れてならないことである。

こうした苦難の中にあって、スポーツ団体の組織づくりは松江体育協会が中心となって、昭和21年5月に島根県体育協会を設立し、県庁と松江市役所の双方の体育系でもって全県種目別連盟の事務局を半分ずつ受け持ち、全県的な行事を遂行したもので、現在中国五県で会場廻り持ちで行われている各種目別中国五県対抗競技大会も上記の体勢の下で本県が広島、岡山、山口、鳥取各県に呼びかけて、実現させたのがきっかけである。21年第1回五県バスケットボール大会、22年第1回五県陸上競技大会をそれぞれ松江市で開催して、当時は競技成績に於いても他県を凌ぐものがあったが、こうした面からも松江体育協会が戦後の地方スポーツ界復興の推進力となり、スポーツ普及のために果たした役割は大きく評価されてよいであろう。

戦後、国民体育大会が国民のスポーツ祭典として我が国スポーツ界の発展に大きな力となっていることは疑う余地もないが、これを開催した県は国体を踏台として飛躍的な県勢の発展をみており、中国五県の中でも26年広島、37年岡山、38年山口が立派に国体開催の責を果たして以来、山陰スポーツ界の遅れが余りにも目立ってきつつある。国体の島根県誘致は果たして何時のことであろうか。

現在ではスポーツ団体の機構も行政区域単位に規定されたので、中央に対してはすべて県単位であり、戦前のような山陰地域代表団体としての役割も必要なくなり、県内においても松江市と肩をならして市町村に体協が組織されるようになったので、松江体育協会としての今後は市民体育の振興、スポーツ人口の増加をはかり、明るく健康な松江市と町づくりと人づくりへの役割が大きくなってきたと云えよう。

しかし、県都としての使命、役割はおのずから他市と異なるのは当然のこと、平常時の県スポーツ界のリーダーシップをとるのは、やはり松江体育協会の役目であろうし、わけても将来国体誘致となれば当然中心会場とならねばならない松江市が万般に亘って準備しなければならないものについては打つべき手は打たなければならない。これは今後の松江体育協会にとって大きな課題である。

松江体育協会の現在機構は40年3月発展的な大改造によってできたもので創立以来受けつがれてきた部制を廃して、種目別連盟を独立させ、これが21種目となり、更に松江市小学校体育連盟、松江市中学校体育連盟、教職員体育連盟を加えて、24団体を加盟団体とする統轄団体となったものである。なお会則の示すところでは小学校校区别体育協会も加盟できることになっており、各公民館単位の体協づくりも着々とすすんでいるもので、43年度の加盟団体は合わせて30を越す大規模なものとなるので大同団結しての活動が大いに期待される場所である。

松江体育協会の活動を通じ会員が各方面から表彰を受けた数は夥しいものがあるが、国民体育大会開催式で行われる社会体育優良団体表彰では昭和29年松江体育協会が選ばれ札幌主催会場に於いて、金山千副会長（市教育長）に表彰状が授与されたが、昭和41年で第50回を迎えた全山陰陸上競技大会開会式に際し、日本陸上競技連盟から表彰状が本会の副会長であり、島根県体育協会の会長である秋本盛一氏に授与され、これ又松江体育協会の多年に亘る努力と功績が認められたもので、この栄誉のかげには協会役員として選手として陸上競技に青春を打ちこんだ人々の限らない情熱と、これを声援し育んできた松江市民たちの愛情があり、そして、深い理解の下に惜しめない援助を与えてきた松江市当局のことも忘れてはならないであろう。





財団法人化の実現とその経過

松江体協加盟団体が年々増加するのと併せ、市体育行政に対する協力依頼も年々ふえつつあり、これに対処するためには、どうしても事務局をはじめ役員と組織力の強化は、ほっておけない重要課題となってきた。そこで昨年の賀会の宣言決議で、第1に取り上げたのが協会の法人化であった。賀会が終るや早速このことに取り組んだのであったが、法人設立には基本財産を必要とすることは承知していたものの、許可する立場の県教委に伺ってみてはじめて明らかにされたことは、近年の例から我々が予想していたのに反してあまりにも高額を示されたことに驚き先行き不安を思わせるものがあった。そうした中で、2月6日、佐藤・和田両副会長、桂理事長等を中心に法人化の規約案を作製、2月26日佐藤・和田・永江等で県教委総務課原田課長補佐に面談。松江体協の歴史と現在の活動状況等を説明し、法人化の必要性と基本財産の額について理解を求めた。

その後、基本金の額は中村会長からも直接県へ話をしてもらって漸く500万円に落ついた。

3月14日、寄附行為案を県に提出の上指導を受け、3月26日常務理事会と理事会の議を経る一方、基本金の500万円については、市より全額を会に寄附をうけることがきまり、以後諸手続きを了し、6月20日正式申請書を県に提出、7月2日付（1日が日曜日に当たったため）財団法人松江体育協会設立を許可するとの文書が7月11日に協会事務局に届いた次第である。

なお役員は理事25人、代表理事会長には中村市長が就任。事務局員は1人増員して、常任専務理事のほか事務員2名に強化され、今後市スポーツ界の付託にこたえ、これまでの伝統を大切にしながらも新しい時代に即した活動を展開していくことになった。





松江体育協会には「市」がないこと

元理事長 桂 隆 義

松江体育協会には「市」の文字がない、即ち松江市体育協会ではない。

このことに気づかない人もあると思うが、それは次の事情によるものであるということを先輩から聞き及んでいる。

そもそも松江体育協会の沿革は遠く大正2年（1913）にさかのぼる。

大正天皇初の天長節（天皇誕生日）を寿ぎ開催された陸上大運動会の主催者となった松江市連合青年会が、その前進であり、以来この連合青年会は地方体育の振興に努め、陣容を拡充強化しつつ大正13年（1924）松江体育協会の設立となったものである。

その後、大正14年（1925）には東京に日本陸上競技連盟が創立され、松江体協はその歴史的活躍の実績から山陰地方の統轄団体として、山陰地域の大会開催と全国大会への出場選手銓衡機関として認められたこともあり、このことから実質的には山陰体育協会として活躍をして来たものである。

時は流れて五十余年、昭和53年末頃より今後の活躍に備えて、体協法人化の構想が生まれその具体策について検討が行なわれ、たまたま、寄付行為の草案作成にあたり、寄付行為の目的条項を定めるとき、松江体協の沿革を盛り込みその対象は単に松江市及び松江市民のみに限定されたものでないことを明示すべきこととなり、第3条は次の如く作成された。

即ち、（承前）大正13年5月1日設立された松江体育協会の伝統と業績を継承し、広く体育・スポーツの振興に関する事業を行い、もって住民の泰直の向上に寄与することになった。従って（財）松江体育協会も松江市の体育・スポーツ振興と市民の体力の向上に寄与するばかりでなく、広く県内外にその活動の場をもつことになったために「市」の文字が除かれたのである。



参与金山千

吉岡は、大会長の指示に従って、やり直しの 200 メートルを一人で走った、今度は懸命に走ったのであった。

吉岡は 70 歳を過ぎてからであるが「わが人生一直線」と題して、自らのスポーツ人生を書いた著書を出版



したのであった。

その中に、昭和4年第16回全山陰陸上競技大会での事を、[忘れられない事]として、次のように書いているのである。

[200メートルは、出場者が少なく、予選は最下位でも通過出来るはずだった、そこで私は、軽く流して走った、それが大会長 石倉俊寛松江市長の逆鱗に触れた。市長は「あのだらしのない走り方は何だ、思い上がりもはなはだしい、予選であれ・決勝であれ、全力を尽くすのがスポーツマンではないか」と、言うのであった。当時、既に山陰では有名選手になっていた私は、些かテングになっていたかも知れない。市長の言葉を肝に銘じ、以後はどんなレースでも、全力を傾けることとした]と、自分のレース観の変化と、決意を述べているのである。ここに吉岡は、単に走り方のみの問題と受け止めず、真のスポーツマンとしてのあり方を強く内省したのであった。

爾来、吉岡は「所謂勝ちさせればよい主義」をば、断固払拭し「決勝のために力をセーブしたほうがよい」などの忠告も多かったようであるが、吉岡は、スポーツの真髄に生きたと述べているのである。

その後、吉岡は、いよいよと大成し、極東大会或はオリンピックでと、活躍したのであったが、特に昭和10年のオリンピック ロスアンゼルス大会では、その駿足をたたえられ「暁の超特急」の威名をつけられたのであった。この大会で100メートルに優勝したアメリカのトーラン選手は、吉岡と対比して、「深夜の超特急」と言われたのであった。

吉岡のスタートダッシュは、世界一の定評があった、このロス大会でも、吉岡は、60メートルまではトップであったが、抜かれて6位におわった。然し乍らオリンピック大会において、100・200の短距離で、日本選手が、決勝に進出したこと自体、吉岡が初めてである。あれから60年の歳月が流れているが、今尚短距離で、決勝進出は吉岡以外には無いのである。

然も又吉岡の100メートルの記録10秒3は、今も尚日本記録の上位クラスを飾って居るのである。

まことに吉岡は、希代のスポーツマンであるが、その大成への原動力として培いの力に、松江体育協会が大きく影響力を与えていると思うのである。

郷土島根が生んだ吉岡選手・松江体育協会が育てた吉岡選手であるのである。

松江体育協会創立70周年に当り、協会の歴史を偲びつつ、その大きい業績を賛たえるのである。





思い出すままに

参 与 和 田 正 則

松江体育協会の創立

大正2年松江市連合青年会の結成を記念して開催された陸上大運動会が、全山陰オリンピック大会にまで発展。規模も山陰両県はもとより、兵庫・山口両県からも参加があり二日間では終了できず、三日間に及んだこともあった程の盛況振りであった。然し回を重ねる中で、組織の若返りと運営の近代化を叫んで立ち上った青年部を、各新聞報道陣も強く支援し、大正13年5月1日「松江体育協会」の誕生となり、大会の主催権は「松江体協」の手に移った。そして翌14年、日本陸上競技連盟が創立された際に、島根・鳥取両県を統轄する団体として迎え入れられた。当時全国で400米公認競技場は十指にも満たなかった時代だったので、公認競技場を持つ松江体協の名は中央からも重視され、陸連全国会議で議長に選出されるなど、先輩の偉大な足跡には驚くべきものがあった。創立のスローガン「普く・絶えず・正しく」の八文字は私にとって終世忘れえぬ感銘深い語録である。ちなみに会のマークはMとAの組合せであるが、常務理事園山重之氏の考案である。

松江体協事務所を市役所へ

発足当初は、事務所を民間人宅に（昭和4・5年頃は常務理事山口権六氏…北殿町…）置いて運営されていたが、陸上競技場が竣工してからは、中央との連絡が頻繁となるにつれ、主人は銀行勤め、留守番の奥さんでは電話の対応も出来ないといった状態で困った体協側が事務所を市役所で引きうけて欲しいと陳情したのが昭和5年である。

私事で恐れているが、私が松江中学を卒業、市へ勤務したのが昭和4年3月、中国地方初の直走路200米・一周400米のトラックをもつ市営陸上競技場が竣工した年である。その年の7月時の市長高橋節雄氏の英断で当時としては余り他都市に類をみない「社会教育課」が新設され、同課に配属された私は必然的に全山陰陸上大会との深い縁をもつことになった。グラウンドの開場記念第16回全山陰陸上競技選手権大会が開催されたのは9月21・22の両日、社会人1年生の私にとっては思い出に残る初仕事、本当に仕事の虜になり一日一日が楽しくてならなかった。

この実績が買われたのが、前述の体協事務所移管陳情に当って、市長からどうかと意見を聞かれ、大変な大仕事にも拘らず臆することなく、引きうけましようかと答えた。

当時の全山陰陸上大会と云えば、市内の小中学校は土曜日は休校して応援団を繰り出し、開場機数は観衆



で埋め盡される程の熱狂ぶり、如何にしたら競技役員にして貰えるかと、憧れるほどの華やかな一大イベント、その事務局をやらせて貰えるとは、正に夢のような話であった。

爾来専門職でもない一公務員が、市・県と職場は変わっても、文字通り一貫してスポーツ関係の領域で仕事をさせて貰えたのも、社会人一年生のこの時期における、全山陰との、そして松江体協との出会いがあったらこそであり、今振り返るとき、何かしら前世からの因縁めいたものすら感ずる次第である。それについても良き先輩からの励まし、上司の理解・同志・同僚の協力の程にあらためて深く感謝するところである。

岸運動場の建設

近代スポーツの父として広く内外に名声を博した郷里の大先輩、岸清一先生が没せられたのは、昭和8年10月29日、折から明治神宮体育大会が、外苑で開催されている最中、突然発作のため自宅で急逝した。享年67歳、生前の偉業を永く後世に伝えるため、東京出雲学生会の発企で内藤伸氏作の銅像が県庁前現在地に建立されたのが昭和10年10月20日である。

東京から土谷弘毅氏が来松、万端の世話をされ、私もそのお手伝い役を勤めた。銅像建立を機に、博士の出生地雑賀でも、地元雑賀地区に何かを残したいと、町内選出の山尾鶴吉市議の音頭で、岸家からの寄附を基に床几山元放送局南側に小規模ながら総合運動場の建設が計画され、昭和14年6月1日起工、総工費約2万円、勤労奉仕も延べ4,000人に及んだ。翌15年4月開場記念式典が開催され、岸運動場として先人の遺徳を顕彰することになった。然し何分にも悪条件の急斜面を利用しての工事だっただけに、設計書と実態とは隔たり、小校庭程度のトラックと、狭い子供野球場を主体とした広場に過ぎなかったとは云え、戦時中は運動会によく利用されたものの、戦争末期には芋畑に転用されたのは、やむを得ないことといえよう。戦後は余り顧みられぬまま、昭和30年にこの地にミッションスクール誘致の話が持ち上り、市は松徳女学院中学部敷地として売却を決定、売却額の半額は岸家に差し上げたのだった。雑賀地区からは、代替の要望が強かったのに対し、市は現白潟小学校の湖岸側一帯を公園化し「岸公園」と命名したが、現在の市政要覧では「松江湖畔公園」として一括され、その呼称で由来を偲ぶことが出来なくなったことを心残りに思う者は私一人だけではあるまいと思う。

なお元運動場入口に建てられた、立派な石柱はその後学校の片隅に放置されていたのを雑賀公民館が松徳校の了解を得、由来を追加彫刻し、平成3年3月、同校南側築地斜面に移築、校区史蹟として保存してくれたのは喜ばしいことである。

(文責・松江体協事務局)



普く絶えず正しく (あまねく たえず ただしく)

「普く」「絶えず」「正しく」が松江体協の3大スローガンであることは広く知られている処です。

然しながら、さて「そのルーツは？」と聞かれると、即座に「こうだ」と答えられる人は現代の体協人のうち一体何人いるのでしょうか。とにかく長い歴史の中に埋没してしまいそうな貴重な史実を、東京在住の桂隆義氏（元松江体協理事長）からお寄せ頂きました。

遠くに在って尚、松江体協に寄せる同氏の愛情をしみじみと感じられます。

『松江体協スローガン「普く」「絶えず」「正しく」』

『松江体協60年誌』をひもとくと、その冒頭にスポーツ都市宣言と共に『普く絶えず正しく』のスローガンが掲載されている。

このスローガンは50年余も前から今日まで『M』のマークと共に私の脳裡に深く刻まれており懐かしく思うものであるが、このスローガンが制定された史実、経緯などについては、松江体協の誕生に遡らねばならない。

抑々、松江体協は大正13年（1924）に設立されたものであるが、それより更に11年前、大正天皇初の天長節（天皇誕生日）を奉祝して開催された松江市青年大運動会の主催者である松江市聯合青年会が母体であり、これが強化されて松江体協の設立となった由である。

当時のスポーツは『行うスポーツ』より『見るスポーツ』であり、種目としては陸上競技が代表的で市民にとって大きな娯楽の対象であったと聞いている。その為か競技会当日はまるでお祭りか花見のように弁当持参、時には一瓢の酒まで携えて全くの物見遊山となり、従ってそこにはひいきの気分も横溢し果ては観客同士のいさかいも皆無とは言えなかったらしい。こんな状況であったので、選手自身も市民の手前もあり『どげでも勝たにゃならん』と、ややもすればルール軽視もあったようである。

斯くの如き状況を憂えた先輩方は真のスポーツに徹し『見るスポーツ』より『行うスポーツ』そして更には『継続的な』『市民参加のスポーツ』の普及と後年選手代表宣誓の極めつけとなった『正々堂々』たるものでなければならない事に着目され、それが松江体協設立と同時に『M』のマークと共にこのスローガンの制定となったものである。

爾來60余年、プログラムや会報にも掲載され今日に至っているのであるが、この深遠な理想を掲げたスローガンこそ、まことに簡にして明、我々の金科玉条として今後も各種大会の頭上に燦として輝く事であろう。いま、改めて松江体協創立の偉業を成し遂げられた数多くの諸先輩、就中原田近、山内佐助、園山重之、裏辻恭太郎、島谷掌三等の故人の方々の温容を偲び、また今も元気で活躍されている先輩方に深い尊敬の念を新たにするものである。





松江体育協会80年に想う

参 与 桂 隆 義

私が松江体育協会（以下単に体協と記す）に入会したのは昭和7年の春のことであった。その頃会員募集があり、当時松江中学校生徒であったが先輩の和田正則さんよりのおすすめであった。今から72年前のことである。そして桐箱入りのバッヂが届けられた。それは当時珍らしい七宝焼で陸上競技場をかたどりフィールドの部分にはMとAを組み合わせたマークが紺地に銀で入り、白地のトラック100米コースにはMTKが赤字で記されている立派なものであり（園山重之氏案）裏面には「純銀」と刻印されていた。

時は流れて昭和48年、初の民間人の理事長に選任され体協運営に携わることになった。昭和54年、松江を離れ副会長を辞任する事になるまで数々の思い出がある。中でも、さよなら陸上競技場、体協法人化等はその最たるものである。

さよなら松江陸上競技場

都市計画に伴い移転することになり昭和52年第2回体育祭において松江市長より競技場運営の功労者として石倉元市長と体協が感謝状を戴くことになり、私は体協理事長として受領した。そして体育祭終了後関係者がフィールドに集まり夕暮れの芝生に円陣をつくり、かがり火を囲んで應援歌などを高唱して別れを惜しんだ。

体協法人化（昭和54年7月2日設立）

昭和57年くにびき国体を控え体協の基盤強化のため法人化（財団法人）が計画され当時市助役であった佐藤副会長が中心となり基金の確保、議会関係の折衝などに努められた。私は体協が古い歴史を持ったものであり、その伝統を後世に残しつつ法人化するものという意味を持たせるために定款にその旨記載する要があると思い強くこれを要請し、第3条に「松江体育協会の伝統と業績を継承し」の文言を入れ創立以来の諸先輩の業績が将来にわたり残されることになった。

回顧すれば、体協のお蔭で数多くの先輩や友人と知り合い交遊を重ねることが出来、そして中には今日まで延々としてつづき、私の人生に大きな潤いを与えているものと思う。茲に創立80年を迎えるに当たり往時を回想し改めて財団法人松江体育協会の更なる発展を祈る次第である。



松江体協の誕生とその活動

松江連合青年団によって、連合青年陸上大運動会が大正2年に開催されたことで、本県スポーツの端緒となったが、名称も運動会から山陰オリンピックと変り、大会の内容も実質的に次第に競技大会としての発展をみせた。

大正12年の第11回の大会を終えると、既に大会規模も大きくなり、運営をはじめ種々の問題も生じ、新しい組織確立への声があがった。そして青年会の解散と共に、13年に新しいスポーツ、運動団体としての松江体育協会の誕生となった。この体協組織の誕生は、全国的にも、極めて早く、中央を離れた地方都市としては驚異的なことでもあった。全国的に見ても、東京、大阪、名古屋、広島という大都市に次いで、快挙であった。県体協の組織自体も松江体協がその前進的な役割を果たした。鳥取県も加えて各競技の全山陰大会など、スポーツの中心的な諸行事も松江体協の手によって進展した。大正14年の大日本陸上競技連盟の創立においても、松江体協が山陰を代表する組織として、体協常任理事の島谷掌三がこれに参画し、日本陸連の誕生とともに山陰を代表する加盟団体となり、日本陸連においても有力な1団体となった。昭和11年の日本陸連の組織改革によって、新たに山陰陸上連盟が発足するまで、実質的な山陰地方の陸上競技の統轄団体として存在した。また、陸上競技以外でも卓球・山岳・スキー・水上競技・野球などの諸競技を進興させ、それらの事業を掌握する組織として活動した。青年会に代り、山陰オリンピックの実施運営ということが最大のスポーツ行事であっただけに陸上競技が中心であり、当初は体協とはいえ、陸協のような存在ではあったが、やがて地域において体育・スポーツの組織団体としての組織的な広がりをみせるところとなった。結成された当初、陸上競技を中止として、部としてスキー・山岳と卓球部のみであったが、やがて各部委員制となり、陸上競技、スキー、山岳、卓球をはじめ既に松江市を中心に普及していた野球、庭球、球技、水泳の各部をおき、幅広い競技の実質的な組織母体となった。

設立された機構と役員は、会長に高橋義比（松江市長）、副会長古井善之助、高梨秀善、常務理事には井原修三、原田近、林原武雄、園山重之、裏辻恭太郎、山口精六、松井相軒、古満繁、島谷掌三、菅井恒市であった。会長はのち高橋節雄（松江市長）に引き継がれ、昭和4年には、石倉俊寛（松江市長）となり昭和18年まで継続した。各競技種目別の委員制が整い、事務局が市に設置されたことによって、陸上競技のみでなく、水泳をはじめ、庭球、籠球、排球、卓球など各種目の山陰選手権の創始、主催、また、後援団体としても大きな役割を果たした。大正期から昭和にかけて当時未開発であった大山スキー場を舞台にして地方でのスキーの草分けとなったり、昭和4年に完成を見た昭和運動場（後に松江運動場と改称）の実現なども、松江体協としての組織を通しての強力な運動を背景としてのものであった。





本会は、平成25年新年総会において、平成25年4月1日より「公益財団法人松江体育協会」と名称を変更し、今まで以上に市民一人ひとりがスポーツを日常に取り入れ心豊かな社会の実現を目指すことを、宣言しました。

財団法人松江体育協会 新年総会宣言決議

宣 言

財団法人松江体育協会は、創立以来の精神と伝統を継承し、「普く」「絶えず」「正しく」のスローガンのもと、スポーツの普及・発展と競技力の向上をめざし、活力ある豊かなまちづくりに向け加盟団体とともに邁進してきた。

本年4月1日には「公益財団法人松江体育協会」として、気持ちも新たに出発する。これを機に昨今の厳しい社会情勢を踏まえ、今までにも益して市民一人ひとりがスポーツを日常生活にとり入れ、心豊かな社会の実現をめざす必要を強く感じる。

本会は、加盟団体や行政と連携・協力を図りながら、市民の体力維持、増進にも貢献できるよう更なるスポーツの発展へ向けた施策を構築する。

平成27年度には現在、建設に向けて準備が進む新体育館がいよいよ完成する予定である。松江市のスポーツ活動の中核となる新体育館をはじめとするスポーツ施設の充実と環境整備は元より、その活用においても行政と連携を図り、本市のスポーツ活動が充実し各競技団体における競技力の向上が、実を結ぶように努める。

また、スポーツに対する意識の高揚を図り、生涯スポーツ社会の実現をめざすとともに組織の強化を図り、指導者の養成や優秀な選手の発掘・育成に努め、より一層のスポーツの普及・発展を推し進める。

決 議

- 一、新時代に対応するスポーツ振興策を構築し、スポーツに対するより一層の意識高揚を図り、生涯スポーツの実現に努める。
- 一、スポーツ振興に資するため行政と連携を図り、松江市のスポーツ活動の中核となる建設予定の新体育館を中心として、スポーツ施設の効果的な活用や施設設備の充実などスポーツ環境の整備に努める。
- 一、競技力向上をめざし、組織の強化を図り、指導者の養成や優秀な選手の発掘・育成に努める。
- 一、公益財団法人として、市民の体力維持、増進に寄与できるように努める。

上記決議する。

財団法人 松江体育協会







松江体育協会事務所の変遷

(公財) 松江体育協会事務局

公益財団法人松江体育協会は、令和4年（2022年）5月に、松江市総合体育館内に事務所を移転したところです。

この地は旧松江市営陸上競技場（昭和運動場、川津グランド）、旧松江市営野球場の隣接地であり、松江体育協会にとっても思い出深い場所です。

松江体育協会は、大正2年（1913年）、松江市連合青年会の結成を記念して開催された「陸上大運動会」が、山陰オリンピック（現全山陰陸上競技大会）に発展する中で、その運営にあたる組織の近代化のため、大正13年（1924年）新たに「松江体育協会」として組織化されスタートしました。

この山陰オリンピックは、当初天神（白潟天満宮）裏で開催、その後、城山二の丸、末次埋立地と会場を移し、昭和4年（1929年）9月に旧松江市営陸上競技場（昭和運動場、川津グランド）が完成した後は、昭和53年（1978年）松江総合運動公園陸上補助競技場が完成するまで、この地にて開催されつづけました。

この場所は、現北公園多目的広場（旧松江市営野球場跡地、旧松江市総合体育館跡地）の西側、県立プール跡地の北側に位置し、松江総合運動公園と並び、昭和、平成、令和と続く、松江市スポーツの中心でありました。

松江体育協会事務所は、発足当初、故園山重之常務理事、故山口権六常務理事の自宅、店舗に設置されました。

その後、中央スポーツ界との交渉事務等業務量が増大したことなどから、昭和5年（1930年）10月松江市社会教育課に移され、以後昭和33年（1958年）には松江市体育課、昭和40年（1965年）には改めて松江市社会教育課の所管するところとなりました。事務所の場所も松江城の興雲閣、末次の旧市役所庁舎に移転してきたところです。

その後、昭和56年（1981年）市役所庁舎別館に移転独立し、昭和60年（1985年）に旧松江市総合体育館、平成5年（1993年）に松江市生涯学習センター、平成10年（1998年）旧松江市総合体育館、そして平成22年（2010年）に松江市役所に移転した後、約12年の年月を経て、思い出の地、松江市のスポーツの聖地に帰ったところです。

松江市総合体育館は、大会等の有無にかかわらず、平日の午前中を除けば、ほぼ満杯の状況であり、幼児から高齢者までが活用し、松江市のスポーツの振興、健康の保持増進に寄与する社会体育施設です。また、島根ササノオマジックのホームアリーナとして市民に夢と希望、感動、誇りを与えてくれるプロスポーツの場でもあります。大きな歓声、ボールの響き、市民の皆さんの躍動を肌で感じるができる場所です。

当然のことながら多くの松江体育協会加盟団体が活用する施設であり、松江市総合体育館内に事務所が復帰・開設できたことに対し、松江体育協会加盟団体、役員一同喜びとするところであり、松江市御当局に対し感謝申し上げるしだいです。

今後は、この恵まれた事務所環境を活かし、多くのスポーツ団体、関係者、選手の皆さんや市民の皆さんと交流する中で、様々な情報の収集や発信等も行いながら、本協会の目的である「体育・スポーツの振興」「住民の体力の向上」に向け、より一層努力して参りたいと考えているところです。



事務所變遷年表

年号	年	西暦	月	日	記事・事務所所在地
大正	13	1924	5	1	松江体育協会発足 故園山重之常務理事、故山口権六常務理事の自宅、店舗を事務所として発足
昭和	5	1930	10	1	松江体育協会の事務局・事務所が理事宅を転々としていたこと、中央との折衝等業務量が増大したことにより、事務所を市役所内に設置することを陳情 松江市社会教育課に事務局設置（以後体育係が業務を受け継ぐ）
	56	1981	3	2	事務局を市役所庁舎別棟3階に移転独立
	60	1985	4	4	事務局を松江市総合体育館に移転
平成	5	1993	3	28	事務局を松江市生涯学習センターに移転
	8	1996	4	9	事務局を松江市役所に移転
	10	1998	4	7	事務局を松江市総合体育館に移転
	22	2010	9	13	事務局を松江市役所に移転
	25	2013	5	27	事務局を市役所第4別館から第3別館に移転
令和	4	2022	5	19	事務局を松江市総合体育館に移転



松江市総合体育館付近航空写真（1960年代）

出典：国土地理院ウェブサイト

(URL:https://maps.gsi.go.jp/#17/35.472117/133.063617/&base=ort&ls=ort%7Cgazo3%7Cort_old10&blend=00&disp=111&lcd=ort_old10&vs=c1glj0h0k0l0u0t0z0r0s0m0fl&d=m)



松江市総合体育館付近航空写真（現在）

出典：国土地理院ウェブサイト

(URL:<https://maps.gsi.go.jp/#17/35.472117/133.063617/&base=ort&ls=ort%7Cgsi-compare-photo&blend=0&disp=11&lcd=gsi-compare-photo&vs=clglj0h0k010u0t0z0r0s0m0f0>)

參考資料

松江体協會60年 財団法人 松江体育協會

松江体育協会創立80周年記念誌「20年のあゆみ」 財団法人 松江体育協会

公益財団法人 松江体育協会 創立90周年記念誌 公益財団法人 松江体育協会

元松江市社会教育課長 和田正則 著 「松江体育協会のあゆみ」

公益財団法人松江体育協会創立90周年記念誌掲載

(昭和43年1月15日「松江体育巨魁のあゆみ」より再掲)

創立90周年実行委員会委員長（松江体育協会総務企画委員長） 金山 滉 著

「松江体育協会創立90周年を迎えるにあたって」

(公益財団法人創立90周年記念誌掲載)





新型コロナ禍を乗り越えて ～ スポーツができない初めての体験 ～

(公財) 松江体育協会事務局

新型コロナウイルス感染症は、2020年（令和2年）1月、日本で初めて感染者が確認されました。

この感染症は、その感染力の強さなどから世界的流行（パンデミック）となり、日本国内でも重症化し死亡に至るケースも発生するなど人々の生活に大きな影響を及ぼしました。

世界各地で入国制限やロックダウンする都市も現れ、日本国内においても社会経済活動が大きく制限され、観光、飲食、宿泊業など大きな打撃を被ることとなりました。

スポーツ界においても、東京オリンピックの延期、国民体育大会や高校野球甲子園大会の中止や無観客での開催など大きな影を落とすこととなりました。

いままで『当たり前』と思っていたことが突然できなくなる。仲の良い友達と笑顔で語り合う、美味しい物を食べる、みんなで大好きなスポーツを楽しむことなどが奪われたこの間の松江体育協회를振り返りました。

【2020（令和2）年度】

新型コロナ感染症の拡大で加盟団体は、大会や教室など通常の活動ができない状況となりました。また、全国大会等も中止が相次ぎ、出場する機会を失う種目団体が多数発生しました。

このため、例年交付している補助金も交付方法を検討し、前期、後期の2回に分けそれぞれの活動状況に応じて交付しました。

市民体育祭も大運動会をはじめ各種競技が中止となりました。

さらに、例年開催している新年総会は中止、体育協会表彰は功労賞のみ、優秀選手賞・チーム賞は見送ることとしました。

併せて、毎年発行している「松江体協会報」は掲載内容が整わないと判断し、内容を縮小した「松江体協だより」として発行しました。



【2021（令和3）年度】

加盟団体は、前年と比較して少しずつではありますが主催大会や教室の開催ができるようになりました。

全国大会等もいくつかは開催され、出場する加盟団体がありましたが、市民体育祭は2020年に引き続き中止となりました。

新年総会は3密を避けるなど感染症対策を講じながら開催し、体育協会表彰の、優秀選手賞・チーム賞は2020年、2021年の2年分を合わせて表彰しました。

松江体協会報は通常の発行となり、加盟団体活動報告も2020年、2021年の2年分を掲載することとしました。

【2022（令和4）年度】

この年の5月、松江体育協会の事務局が聖地である松江市学園南（松江市総合体育館内）に移転しました。

また、感染拡大が多少収まりつつあることや病床使用率や重症病床使用率が比較的低い水準で推移していることから、市民体育祭卓球大会が開催されました。

【2023（令和5）年度】

ついにこの年5月には感染症法上の位置づけが5類に移行し、市民体育祭も今までどおり全種目で開催するなど、少しずつ今までの日常が戻り始めました。

各加盟団体も従来の活動に取り組めるようになり、長くつらい新型コロナ禍の出口に立つことができました。

今日では、新型コロナウイルス感染症との闘いも収束し、以前の日常生活を取り戻すことができました。制約の多い日常生活の送った3年間は、「スポーツがどれだけの役割を果たしているのか」改めて考える期間となりました。

「アフターコロナ」時代に入り、松江体育協会は新たな 100 年に向け、多くの人々がスポーツに親しみ、技術力の向上、健康維持・増進、スポーツを通じて豊かな人生を構築するというスポーツ文化の継承を目指して、更に活動を進めていきます。





令和6年5月に100周年を迎えた本会は、令和7年4月1日より「松江スポーツ協会」と名称を変更し、新たな100年に向け、競技力向上、健康維持・増進を図り、更なるスポーツ発展に寄与すべく、創立100周年記念新年総会において高らかに宣言しました。

公益財団法人松江体育協会 新年総会宣言決議

宣 言

本会は、大正13年5月1日に「広く体育・スポーツの振興に関する事業を行い、もって住民の体力向上に寄与する」ことを目的に設立され、令和6年度に創立100周年を迎えた。

この大きな節目を機に、さらに加盟団体並びに加盟会員一同が一丸となり、未来を見据え、創立以来の精神と伝統である「普く」「絶えず」「正しく」のスローガンを継承し、スポーツの普及・発展と競技力の向上を目指して、松江市民はもちろんのこと広く近隣の住民の参加を得ながら、活力ある豊かなまちづくりに邁進する。

また、昨今の厳しい社会情勢を踏まえ、賛助会員制度の周知を図りながら公益法人としての役割を果たすべく、以前にも増して市民一人ひとりがスポーツを日常生活にとり入れ、心豊かな社会の実現をめざす必要性を強く感じる。

この実現に向けて、加盟団体や行政との連携・協力を深めるとともに、本年開催される全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技並びに2030年開催の国民スポーツ大会に向けて、市民の体力維持、増進にも貢献できるよう更なるスポーツの発展へ向けた施策を構築する。

そのため、スポーツ施設の充実と環境整備を図り、その活用に向けた行政との連携を密にし、本市のスポーツ活動の充実、また各競技団体における競技力の向上に努める。

そして本会は、新たな100年に向け、多くの人々がスポーツに参画し、競技力の向上、健康維持・増進、スポーツを通じて豊かな人生を構築するというスポーツ文化を継承していくことを目指し、令和7年4月1日をもって「松江スポーツ協会」に名称変更し本地域のスポーツの更なる発展に寄与する。

決 議

- 一、公益財団法人として、体育・スポーツの振興に関する事業を行い、広く市民の体力の向上に寄与できるように努める。
- 一、新時代に対応するスポーツ振興策を構築し、スポーツに対するより一層の意識高揚を図り、生涯スポーツの実現に努める。
- 一、スポーツ振興に資するため行政と連携を図り、スポーツ施設の効果的な活用や施設設備の充実などスポーツ環境の整備に努める。
- 一、競技力向上をめざし、組織の強化を図り、指導者の養成や優秀な選手の発掘・育成に努める。
- 一、新たな100年に向け、市民の競技力の向上、健康維持・増進を図り、本地域のスポーツの更なる発展に寄与すべく、令和7年4月1日をもって「松江スポーツ協会」に名称変更する。

以上決議する。

公益財団法人松江体育協会



100th
ANNIVERSARY

100 周年記念事業

100th
ANNIVERSARY

創立100周年記念事業 新年総会

日 時 令和7年1月18日（土）15:00～
会 場 ホテル一畑 平安の間
参加者数 約270名

松江体育協会 100周年記念特別表彰

松江体育協会創立100周年を記念し、松江体協の役員として10年以上継続して本会の充実発展に献身的な努力を続け、スポーツ振興に尽くされた12名の方々の功績を讃えました。



松江体育協会100周年記念特別表彰受賞者

氏 名				主要経歴		功 績 概 要	
まつ 松	うら 浦	まさ 正	たか 敬	元	会長	21年にわたり、松江体育協会の会長として本協会の運営に参画し、本市のスポーツ振興に貢献をした。	
もり 森	わき 脇	はや 勇	と 人	現 現	副会長 松江市軟式野球連盟 会長	10年にわたり、松江体育協会の副会長として本協会の運営に参画し、本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、平成23年から松江市軟式野球連盟の会長として、団体の発展と競技力の向上、普及振興に貢献をした。	
やま 山	もと 本	てつ 哲	や 也	現 現	副会長 松江市地域体育協会 連合会会長	10年にわたり、松江体育協会の副会長として本協会の運営に参画し、本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、平成27年から松江市地域体育協会連合会の会長として、団体の発展と競技力の向上、普及振興に貢献をした。	
ふく 福	だ 田	のぶ 信	お 夫	現 現	理事 松江市卓球連盟顧問	14年にわたり、松江体育協会の理事として本協会の運営に参画し、本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、松江市卓球連盟の役員を歴任し、団体の発展と競技力の向上、普及振興に貢献をした。	
つ 津	もり 森	くに 邦	お 夫	現 現	理事 松江市ソフトボール 協会参与	14年にわたり、松江体育協会の理事として本協会の運営に参画し、本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、松江市ソフトボール協会の役員を歴任し、団体の発展や競技力の向上、普及振興に貢献をした。	
まつ 松	うら 浦	ひろ 廣	ゆき 行	現 現	理事 (一社)島根県サッカー 協会松江支部 顧問	12年にわたり、松江体育協会の理事として本協会の運営に参画し、本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、一般社団法人島根県サッカー協会松江支部の役員を歴任し、団体の発展や競技力の向上、普及振興に貢献をした。	
こ 古	とう 藤	かず 和	のり 則	現 現	理事 松江市弓道連盟 名誉会長	10年にわたり、松江体育協会の理事として本協会の運営に参画し、本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、松江市弓道連盟の役員を歴任し、団体の発展や競技力の向上、普及振興に貢献をした。	
まつ 松	むら 村	みつ 光	ひろ 洋	元 現 現	理事 監事 松江市ソフトテニス 連盟会長	18年にわたり、松江体育協会の理事・監事として本協会の運営に参画し、本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、松江市ソフトテニス連盟の役員を歴任し、団体の発展や競技力の向上、普及振興に貢献をした。	
つば 坪	くら 倉	だい 大	ご 吾	元 現 現	理事 監事 松江地区レスリング 理事	12年にわたり、松江体育協会の理事・監事として本協会の運営に参画し、本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、松江地区レスリング協会の理事として、団体の発展や競技力の向上、普及振興に貢献をした。	
その 園	やま 山	てつ 哲	や 也	元 元	理事 松江市体操連盟会長	10年にわたり、松江体育協会の理事として本協会の運営に参画し、組織の発展と本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、長年にわたり松江市体操連盟の理事長、会長を歴任し、団体の発展や競技力の向上、普及振興に貢献をした。	
わ 和	だ 田		さとし 智	元 元	理事 松江バレーボール協会 会長	12年にわたり、松江体育協会の理事として本協会の運営に参画し、組織の発展と本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、長年にわたり松江バレーボール協会の会長として、団体の発展や競技力の向上、普及振興に貢献をした。	
か 加	とう 藤	とみ 富	ゆき 章	元 現	理事 松江市剣道連盟参与	12年にわたり、松江体育協会の理事として本協会の運営に参画し、組織の発展と本市のスポーツ振興に貢献をした。 また、松江市剣道連盟の参与として、団体の発展や競技力の向上、普及振興に貢献をした。	



100th
ANNIVERSARY

創立100周年記念事業 記念講演会

日 時 令和7年1月18日（土）16:00 ～
会 場 ホテル一畑 平安の間
参加者数 約270名
演 題 「監督が怒ってはいけない大会を開催した理由」
講 師 益子 直美氏（日本スポーツ少年団本部長）



100th
ANNIVERSARY

創立100周年記念事業

こどものためのスポーツ見本市

創立100周年を記念して、令和6年6月30日（日）に松江市総合体育館を会場に「こどものためのスポーツ見本市」を開催しました！（＾▽＾）／

当日は、本協会加盟の14団体と、松江市スポーツ推進委員協議会の皆様の協力を得て、デモンストレーションや体験会、親子で運動に親しむブースを設け、就学前から小学3年生までの親子1,500名が、様々な競技に挑戦しました！

参加者からは、「楽しかった」「またこのようなイベントをやってほしい」などの感想をいただきました。



まつえこ体操



太極拳演武



ソフトテニス



テニス



バスケット



剣道



相撲



卓球





創立100周年記念事業

松江体育協会 創立100周年記念協賛事業

団 体	大会実施日	大 会 名	会 場	参加人数 (チーム)
松江市バドミントン協会	R6. 4.29	(有)宮本食肉店第66回 松江オープンバドミントン大会	鹿島総合体育館	105 ペア
松江市軟式野球連盟	R6. 5. 3～4	第47回松江市 中学校野球選手権大会	松江市総合運動公園市営野球場/ 深田運動公園野球場/玉湯球場	13 チーム
松江市卓球連盟	R6. 5.26	第58回松江市長杯卓球大会	松江市総合体育館	103 チーム
松江市柔道連盟	R6. 6.23	第54回松江市柔道選手権	島根県立武道館	158名
松江市ソフトテニス連盟	R6. 7.15	第35回鈴木カップ公民館 対抗ソフトテニス大会	松江市総合運動公園 市営庭球場	10 チーム
松江市相撲連盟	R6. 8. 3	ちびっこ相撲大会	松江市総合体育館	44名
松江市バスケットボール協会	R6. 8.10～11	令和6年度第54回松江市 小学生バスケットボール大会	松江市総合体育館	34 チーム
松江市ソフトボール協会	R6. 9. 8	第76回松江市 シニアソフトボール大会	島根スポーツ広場	2 チーム
松江バレーボール協会	R6. 9.22	第29回松江バレーボール 協会会長杯	鹿島総合体育館	15 チーム
松江太極拳協会	R6.10.14	第28回山陰地区 気功・太極拳表演交流大会	松江市総合体育館	280名
松江テニス協会	R6.10.20	令和6年度秋季 松江市民テニス大会	松江総合運動公園	66 ペア
松江市剣道連盟	R6.11. 3	松江市少年剣道大会	島根県立武道館	79 チーム 211名
松江市弓道連盟	R6.11. 4	令和6年度松江市武道大会	島根県立武道館弓道場	150名
松江カヌー協会	R6.11.10	2024堀川ふれあい カヌースラローム	松江市末次町 堀川特設カヌーコース	6名
松江市ゲートボール協会	R6.11.17	松江市近隣親善 ゲートボール大会	東出雲町錦浜ふれあい広場	23 チーム 120名
松江市陸上競技協会	R6.11.17	第70回まつえ駅伝 フェスティバル	松江市宍道町来待	250名
松江市体操連盟	R6.11.24	第49回松江市民体操デー 第52回松江市小学生体操大会 第48回松江市中学生体操大会	松江市総合体育館	40名
松江市スポーツ少年団	R6.12.15	令和6年度松江市スポーツ少年団 第48回親子運動会	松江市総合体育館	168名
(一社)島根県サッカー協会松江支部	R7. 1.13	キッズサッカー フェスティバル 2024in かしま	鹿島総合体育館	122名





ちびっこ相撲大会



松江市少年剣道大会



松江市武道大会



キッズサッカーフェスティバル 2024 in かしま



第76回松江市シニアソフトボール大会



第49回松江市民体操デー
第52回松江市小学生体操大会
第48回松江市中学生体操大会

松江歴史館企画展「松江のスポーツ今昔」



2024年7月12日（金）～9月16日（月・祝）

期間中、約2,500名の方が来場され、大変好評を博しました。



令和6年度公益財団法人松江体育協会 創立100周年記念事業にかかる寄付金一覧表

創立100周年記念事業にご支援いただいた皆様です。
ここに感謝の気持ちを込めて、ご芳名を掲載させていただきます。
ありがとうございました。

〈加盟団体〉

松江市陸上競技協会
(一社)島根県サッカー協会 松江支部
松江市剣道連盟
松江バレーボール協会
松江市相撲連盟
松江市バスケットボール協会
松江市ソフトテニス連盟
松江市柔道連盟
松江市弓道連盟
松江ヨット協会
松江市ソフトボール協会
松江スキー協会
松江市中学校体育連盟
松江ハンドボール協会
松江市少林寺拳法協会
松江市ゲートボール協会
松江地区空手道連盟
松江太極拳協会
松江市地域体育協会連合会

〈地域体育協会連合会〉

川津体育協会	乃木体育協会
持田体育協会	忌部体育協会
朝酌体育協会	城西体育協会
本庄体育協会	城北体育協会
城東体育協会	法吉体育協会
古江体育協会	生馬体育協会
秋鹿体育協会	鹿島スポーツ協会
大野体育協会	島根体育協会
大庭体育協会	美保関体育協会
竹矢体育協会	八束町体育協会
津田体育協会	八雲体育協会
古志原体育協会	松江市玉湯体育協会
雑賀体育協会	宍道体育協会
白濁地区体育協会	東出雲町体育協会
朝日体育協会	

〈個人〉

美保関体育協会 会長 三 角 邦 男



100th
ANNIVERSARY

資 料 編

歴代役員一覧

体育施設一覧

歴代役員一覧

(平成27年度～令和6年度)

氏 名	役 職 名	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
 現役役員 (R6現在)		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
松 浦 正 敬	会 長	○	○	○	○	○	○				
上 定 昭 仁	会 長							○	○	○	○
松 浦 嘉 昭	副 会 長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
森 脇 勇 人	副 会 長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山 本 哲 也	副 会 長	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石 倉 孝 昭	顧 問	○	○	○	○						
桂 隆 義	参 与	○									
藤 原 善 夫	参 与	○	○	○	○						
中 村 晴 洋	参 与	○	○	○	○						
廣 江 朝 夫	参 与	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
安 部 隆	専務理事	○	○	○	○	○	○				
星 野 芳 伸	専務理事							○			
湯 町 信 夫	専務理事								○	○	○
出 川 修 治	理 事	○	○	○	○	○	○				
土 屋 高 明	理 事							○	○	○	○
西 村 敏	理 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
野 津 多智夫	理 事	○	○	○	○	○	○	○	○		
長谷川 美 利	理 事									○	○
永 原 和 男	理 事	○	○	○	○						
福 田 信 夫	理 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
古 藤 和 則	理 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
加 藤 富 章	理 事	○	○	○	○	○	○	○	○		
松 浦 辰 彦	理 事									○	○
松 浦 廣 行	理 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
和 田 智	理 事	○	○	○	○	○	○				



(平成27年度～令和6年度)

氏 名	役 職 名	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
現役役員（R6現在）		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
烏 田 彰 弘	理 事							○	○	○	○ (3月まで)
原 田 守	理 事										○ (8月から)
下 諸 純 孝	理 事	○	○								
津 田 陽 一	理 事			○	○						
錦 織 健一郎	理 事					○	○				
郷 原 正 継	理 事							○	○		
成 相 僚 一	理 事									○	
岸 本 行 夫	理 事										○
齋 藤 重 徳	理 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高 木 大	理 事	○	○								
門 脇 昌 徳	理 事			○	○	○	○	○	○	○	○
津 森 邦 夫	理 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
園 山 哲 也	理 事	○	○								
岩 本 雅 之	理 事			○	○	○	○	○	○	○	○
金 山 滉	理 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
高 麗 久 義	理 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
小 中 徹	理 事	○	○								
三 町 智 身	理 事			○	○						
安 達 和 彦	理 事					○	○				
矢 田 誠 司	理 事							○			
持 田 健 司	理 事								○		
松 村 光 洋	監 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
坪 倉 大 吾	監 事	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
役員合計		29	28	28	28	24	24	24	24	23	22





体育施設一覧

陸上

松江市営陸上競技場

☎ 0852-21-3500

トラック 1周 400m 8 レーン



水泳（プール）

鹿島総合体育館

☎ 0852-82-3331

温水プール 25m × 6 コース



松江市宍道 B & G 海洋センター

☎ 0852-66-9200

温水プール 25m × 6 コース



ホットランドやくも

☎ 0852-54-2600

プール 25m × 3 コース



サッカー

松江市営陸上競技場

☎ 0852-21-3500

サッカーコート 107m × 69m



松江市営補助競技場

☎ 0852-21-3500

サッカーコート（人工芝）
110m × 73m
フットサルコート
23m × 43m × 2 面



こどもスポーツ広場

☎ 0852-21-3500

フットサルコート
16.08m × 34m



武道（柔・剣道場）

鹿島武道館

☎ 0852-82-9051

柔道場 98 帖
その他



宍道武道館

☎ 0852-66-8686

柔道場 405 m²
剣道場 405 m²
その他



東出雲体育館

☎ 0852-52-5771

柔道場 121.26 m²



樂山野球場

野球場

A wide, flat, sandy area, likely a beach or a cleared field, with a dense line of trees in the background. The sand is light-colored and appears slightly damp. The trees are dark green and form a thick canopy. In the distance, a small structure with a thatched roof is visible among the trees.

野球場

野球場

野球場

野球場

野球場

野球場

野球場

野球場



体育館

松江海洋センター

☎ 0852-36-6984

第一体育館
バスケットボールコート 1面
バレーボールコート 2面
バドミントンコート 3面
その他
第二体育館
バドミントンコート 2面
その他



サンライフ松江

☎ 0852-27-7711

バスケットボールコート 1面
バレーボールコート 1面
バドミントンコート 3面
その他



松江市矢田体育館

☎ 0852-27-6788

バスケットボールコート 1面
バレーボールコート 2面
バドミントンコート 6面
その他



松江市総合体育館

☎ 0852-25-1700

メインアリーナ
バスケットボールコート 3面
バレーボールコート 4面
バドミントンコート 12面
その他
サブアリーナ
バスケットボールコート 2面
バレーボールコート 2面
バドミントンコート 6面
その他



松江市馬潟体育館

☎ 0852-37-0850

バスケットボールコート 1面
バレーボールコート 1面
バドミントンコート 2面
その他



鹿島総合体育館

☎ 0852-82-3331

メインアリーナ
バスケットボールコート 2面
バレーボールコート 3面
バドミントンコート 10面
その他
サブアリーナ
バスケットボールコート 1面
バレーボールコート 1面
バドミントンコート 3面
その他



鹿島御津地区体育館

☎ 0852-82-9051

バレーボールコート 1面
その他



島根体育館

☎ 0852-85-3252

バスケットボールコート 2面
バレーボールコート 2面
バドミントンコート 8面
その他



宍道体育センター

☎ 0852-66-8686

バスケットボールコート 2面
バレーボールコート 2面
バドミントンコート 4面
その他



八束体育館

☎ 0852-76-3663

バスケットボールコート 2面
バレーボールコート 2面
バドミントンコート 4面
その他



美保関体育館

☎ 0852-72-3521

バレーボールコート 2面
バドミントンコート 4面
その他



玉湯体育館

☎ 0852-62-0442

バスケットボールコート 2面
バレーボールコート 2面
バドミントンコート 3面
その他



東出雲体育館

☎ 0852-52-5771

大体育館
バスケットボールコート 2面
バレーボールコート 2面
バドミントンコート 6面
その他
小体育館
バレーボールコート 1面
バドミントンコート 1面



八雲構造改善センター

☎ 0852-54-0600

バレーボールコート(9人制) 2面
バドミントンコート 3面
その他



テニス

楽山庭球場

☎ 0852-25-1700

硬式テニスコート
(クレー) 3面
ソフトテニスコート
(クレー) 6面



松江市営庭球場

☎ 0852-21-3500

東 テニスコート
(砂入り人工芝) 8面
西 テニスコート
(砂入り人工芝) 8面



松江市北庭球場

☎ 0852-25-1700

テニスコート
(砂入り人工芝) 4面



宍道総合公園テニスコート

☎ 0852-66-8686

テニスコート
(砂入り人工芝) 4面



八束テニスコート

☎ 0852-76-3663

テニスコート
(砂入り人工芝) 3面
(砂入り人工芝壁打ち) 1面



美保関総合運動公園テニスコート

☎ 0852-72-3521

テニスコート
(砂入り人工芝) 4面





空口公園多目的広場

☎ 0852-62-0442

多目的広場 4,377 m²



東出雲中央公園多目的グラウンド

☎ 0852-52-5771

多目的グラウンド
300m × 6 コース



忌部地区多目的運動広場

☎ 0852-33-2010

多目的運動広場 6,566 m²



錦浜1号ふれあい広場

☎ 0852-52-5771

多目的広場 12,357 m²



トレーニングルーム

松江市総合体育館

☎ 0852-25-1700

トレーニングルーム
トレッドミル：5台
コードレスバイク：4台
その他



松江市宍道B & G 海洋センター

☎ 0852-66-9200

トレーニングルーム
エアロバイク：5台
ランニングマシン：2台
筋力系マシン：4台
その他



ホットランドやくも

☎ 0852-54-2600

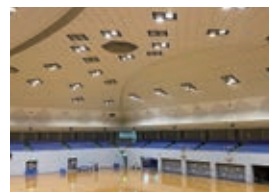
トレーニングルーム
トレーニングマシン全15台



鹿島総合体育館

☎ 0852-82-3331

トレーニングルーム
筋肉強化機器
その他



創立100周年記念事業実行委員会委員名簿

委員長	金 山	滉	(総務企画委員長)
委員	岩 本	雅 之	(総務企画副委員長)
委員	松 浦	廣 行	(総務企画副委員長)
委員	長谷川	美 利	(総務企画委員)
委員	原 田	守	(総務企画委員)



創立100周年記念ロゴマーク コンセプト

ロゴのテーマは「永遠の探求」。正円を組み合わせた無限の形は組織の歴史と未来が一体となり永遠に続くことを示唆します。異なる要素として混じり合う2つの色は、敬意と協調、絶え間ない進化をするというイメージです。真っ直ぐな線は、鍛錬に励むアスリートの探求心を表現しています。

公益財団法人 松江体育協会創立100周年記念誌

～ 普く 絶えず 正しく ～
新たな100年に向けて

令和7年3月 発行

編集・発行 公益財団法人 松江体育協会



図 案 MATSUE ATHLETIC ASSOCIATION

頭文字の組み合わせ・白地にMは青、Aは赤

デザイン 元常務理事 園山 重之(大正13年)

